第3期近江八幡市教育振興基本計画

教育振興基本計画策定に係るアンケート結果

目次

１　調査の概要　・・・・　1

（１）調査の目的
（２）調査対象
（３）調査期間
（４）調査方法
（５）回答状況
（６）集計上の留意事項

２　アンケート結果（こども・保護者・市民）　・・・・　3

Ⅰ　毎日の生活　・・・　3
1　家庭での関わり
2　生活習慣
3　運動習慣

Ⅱ　デジタルとの付き合い方　・・・　9
4　情報端末の利用時間
5　情報端末の利用による困りごと

Ⅲ　学びと学校・園所　・・・　15
6　これからの学校・園所で大切なこと
7　これから学びたいこと

Ⅳ　安心して過ごすために　・・・　24
8　相談できる相手や場所
9　安心して話せる環境
10　安心して過ごせる場所
11　学びや生活の困りごと

Ⅴ　よりよい学校・園所づくりに向けて　・・・　39
12　学校・園所で気になること
13　必要な場所や設備

●　アンケート結果から見えてきたこと　・・・　47

３　アンケート結果（教職員）　・・・・　50

Ⅰ　生き抜く力の育成と戦略的協働基盤（プラットフォーム）　・・・　50

Ⅱ　余白の創出による授業力・働き方改革　・・・　51

●　教職員の意見を踏まえた今後の方向性　・・・　52

1　調査の概要

（1）実施の目的

第３期近江八幡市教育振興基本計画策定にあたり、こども・保護者等の実態やニーズを把握し、特に「こどもの意見」を計画へ反映する基礎資料とするため、アンケート調査を実施しました。

（2）調査対象および回答状況

対象	対象者			回答数
こども	市内の学校に在籍する 小学５年生～中学３年生	小学５年生	779 人	645 人
		小学６年生	795 人	708 人
		中学１年生	849 人	541 人
		中学２年生	863 人	383 人
		中学３年生	830 人	388 人
		計	4,116 人	2,665 人
保護者	対象児童生徒の保護者		4,116 人	1,158 人
保護者（５歳児）	市内の就学前施設に通園する５歳児の保護者		625 人	354 人
教職員	市内の公立小・中学校に勤務する 県費負担教職員		457 人	202 人
市民	市内在住の市民		81,667 人	347 人

（3）調査期間

① こども（児童生徒）　7 月 1 日（水）～7 月 16 日（木）
② 保護者（対象児童生徒）　7 月 1 日（水）～7 月 16 日（木）
③ 保護者（５歳児）　6 月 19 日（金）～7 月 6 日（月）
④ 小・中学校県費負担教職員　2 月 5 日（木）～6 月 10 日（水）
⑤ 市民　6 月 19 日（金）～7 月 30 日（木）

（４）調査方法

学校・園所、広報媒体等を通じて対象者へ周知し、ＷＥＢ回答方式（一部紙回答）により実施しました。

【対象別の実施方法】

●こども、保護者

学校・園所を通じて対象者へ依頼し、ＷＥＢ回答方式により実施しました。

●市民

広報誌、コミュニティセンターへのポスター掲示、市ホームページ等により周知し、ＷＥＢ回答方式および紙回答方式により実施しました。

※回答は任意とし、回答のあったものを集計しています。

（５）集計上の注意

・設問は、原則としてこどもへの質問を掲載しています。対象によって質問内容が異なる場合は、必要に応じて注記しています。
・各設問の割合（%）は、小数点以下第１位で四捨五入しています。
・各設問の割合（%）は、その設問に回答した人数を母数として算出しています。
・「あてはまるものすべて」「３つまで」「２つまで」など複数回答の設問は、回答者数を分母として割合を算出しています。そのため、合計が 100%を超える場合があります。
・「その他」の記述内容については、回答内容を整理し掲載しています。

２　アンケート結果（こども・保護者・市民）

Ⅰ　毎日の生活　　家庭での関わり

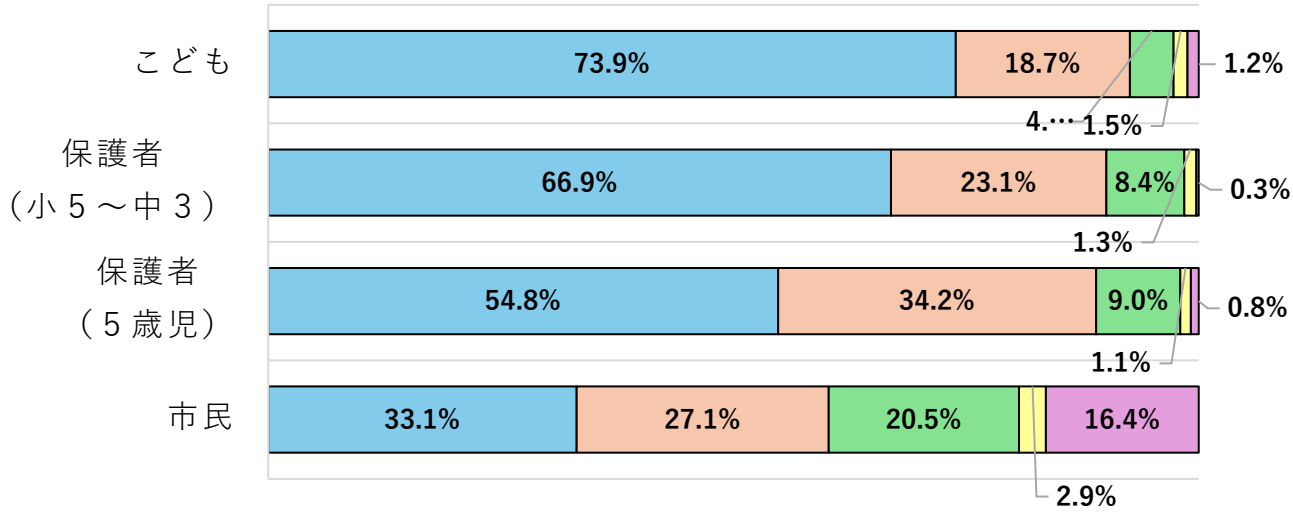
家の人に話を聞いてもらえていると感じるこどもが多い

設問

こども	**家の人は、あなたの話を聞いてくれていると思いますか。**
保護者（小５～中３）	ご家庭で、お子さんの話を聞いたり、様子を見守れていると思いますか。
保護者（５歳児）	ご家庭で、お子さんの話を聞いたり、気持ちを受け止められていると思いますか。
市　民	こどもたちは、家で話を聞いてもらえていると思いますか。

グラフ

● **家庭での会話・見守りの状況【こども・保護者・市民】**



回答数・回答割合【こども・保護者・市民】

項　目（１つ選択）	こども		保護者（小５～中３）		保護者（５歳児）		市民	
よく思う（ほとんど毎日）	1,969人	73.9%	775人	66.9%	194人	54.8%	115人	33.1%
ときどき思う（週に1～2回程度）	498人	18.7%	268人	23.1%	121人	34.2%	94人	27.1%
どちらともいえない	125人	4.7%	97人	8.4%	32人	9.0%	71人	20.5%
思わない	40人	1.5%	15人	1.3%	4人	1.1%	10人	2.9%
わからない	33人	1.2%	3人	0.3%	3人	0.8%	57人	16.4%

分析

こどもでは、「よく思う」「ときどき思う」を合わせると 92.6%となり、多くのこどもが家庭で話を聞いてもらえていると感じている。

保護者についても肯定的な回答が約 9 割を占めており、家庭においてこどもの話を聞いたり、様子を見守ったりする関わりが概ね行われていることが分かる。

一方、市民では「どちらともいえない」「わからない」の割合が、こどもや保護者に比べて高く、家庭内でのこどもとの関わりについては、実態を把握しにくい傾向が見られる。

こどもの生活習慣は概ね良好と捉えられている

設問

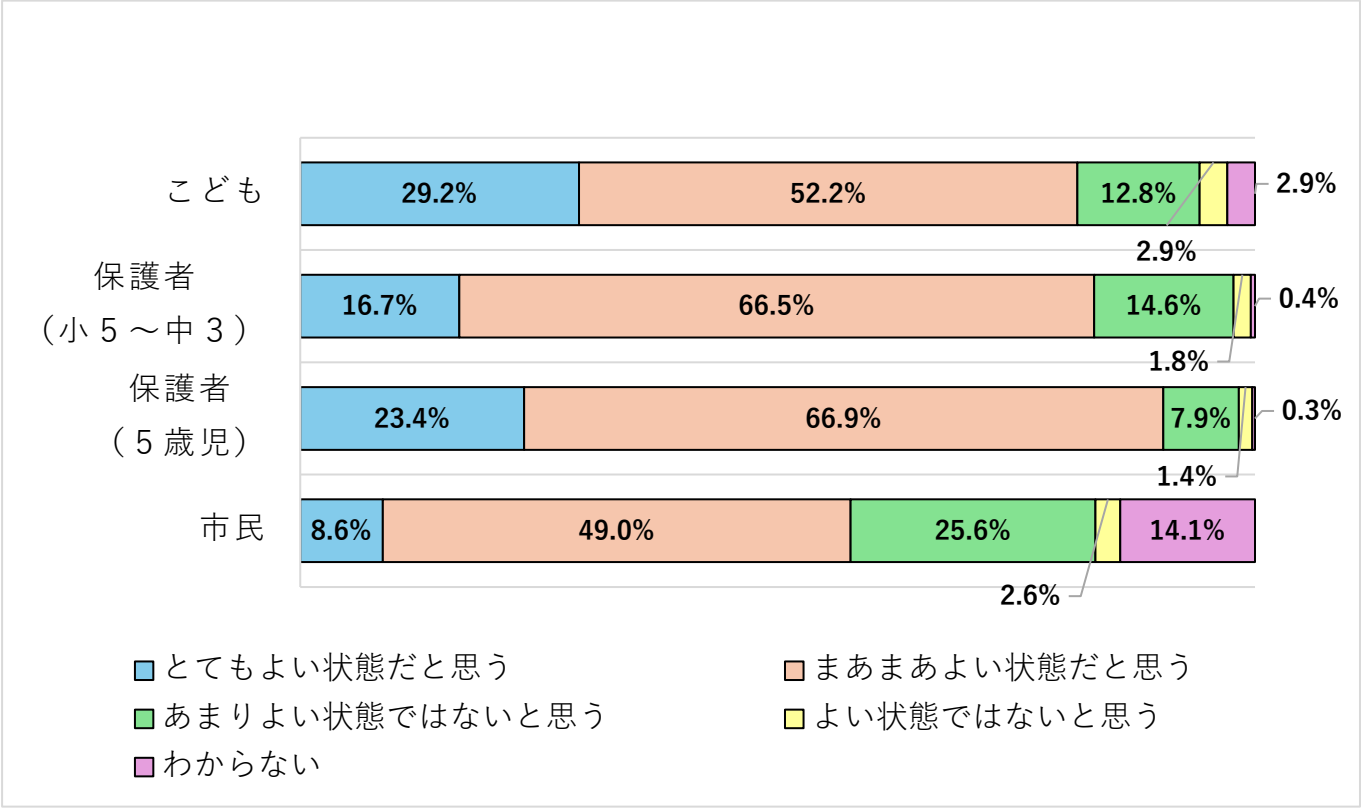
こども　あなたは、ふだんの生活（食事・睡眠・運動）について、どのような状態だと思いますか。

保護者　お子さんの生活　（食事・睡眠・運動）は、どのような状態だと思いますか。

市　民　こどもたちの生活　（食事・睡眠・運動）は、どのような状態だと思いますか。

グラフ

● **生活習慣の状況【こども・保護者・市民】**



回答数・回答割合【こども・保護者・市民】

項　目（１つ選択）	こども		保護者（小５～中３）		保護者（５歳児）		市民	
とてもよい状態だと思う	777人	29.2%	193人	16.7%	83人	23.4%	30人	8.6%
まあまあよい状態だと思う	1,392人	52.2%	770人	66.5%	237人	66.9%	170人	49.0%
あまりよい状態ではないと思う	341人	12.8%	169人	14.6%	28人	7.9%	89人	25.6%
よい状態ではないと思う	78人	2.9%	21人	1.8%	5人	1.4%	9人	2.6%
わからない	77人	2.9%	5人	0.4%	1人	0.3%	49人	14.1%

分析

こどもでは「とてもよい状態」「まあまあよい状態」を合わせて 81.4%、小 5～中 3 の保護者では 83.2%、5 歳児保護者では 90.3%となっており、生活習慣を概ね良好と捉えている割合が高い。

一方で、こども自身や小 5～中 3 の保護者では、生活習慣に課題を感じている回答も一定数見られる。また、市民では「わからない」の割合が比較的高く、こどもの生活習慣を直接把握する立場との違いが見られる。

食事、睡眠、運動などの日々の生活習慣は、こどもの心身の健康や学びを支える基盤であることから、家庭と学校・園所が連携しながら継続的に支えていくことが重要である。

運動時間について、こどもと大人の認識に違いが見られる

設問

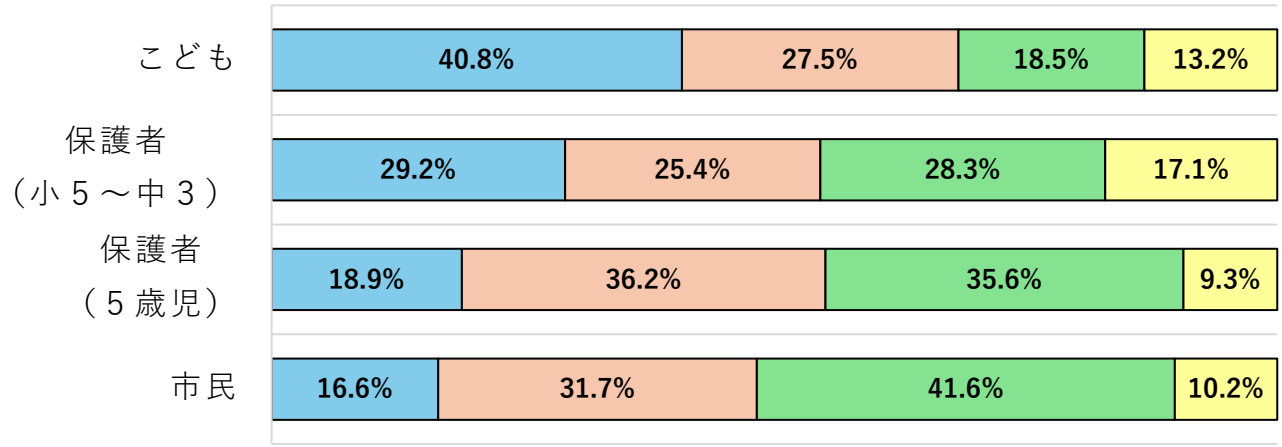
こども　あなたは、体育の授業をのぞいて、１日にどれくらい体を動かしていますか。

保護者　体育の授業（園所）以外で、お子さんは１日にどれくらい体を動かしていますか。

市　民　こどもたちは、学校や園（所）以外で１日にどれくらい体を動かしていると思いますか。

グラフ

● **体育以外で体を動かす頻度【こども・保護者・市民】**



回答数・回答割合【こども・保護者・市民】

項　目（１つ選択）	こども		保護者（小５～中３）		保護者（５歳児）		市民	
60分以上（多い）	1,086人	40.8%	338人	29.2%	67人	18.9%	57人	16.6%
30～60分（やや多い）	732人	27.5%	294人	25.4%	128人	36.2%	109人	31.7%
15～30分（少ない）	494人	18.5%	328人	28.3%	126人	35.6%	143人	41.6%
15分未満（とても少ない）	353人	13.2%	198人	17.1%	33人	9.3%	35人	10.2%

分析

運動時間について、こどもでは「60 分以上」と回答した割合が 40.8%と最も高く、一定程度の運動時間を確保していると感じていることが分かる。

保護者（小 5～中 3）でも「60 分以上」が最も高い一方、保護者（5 歳児）では「30～60 分」、市民では「15～30 分」が最も高く、対象によって回答の傾向に違いが見られる。

運動習慣は、体力の向上だけでなく、心身の健康や生活リズムにも関わることから、日常生活の中で体を動かす機会を充実させていくことが大切である。

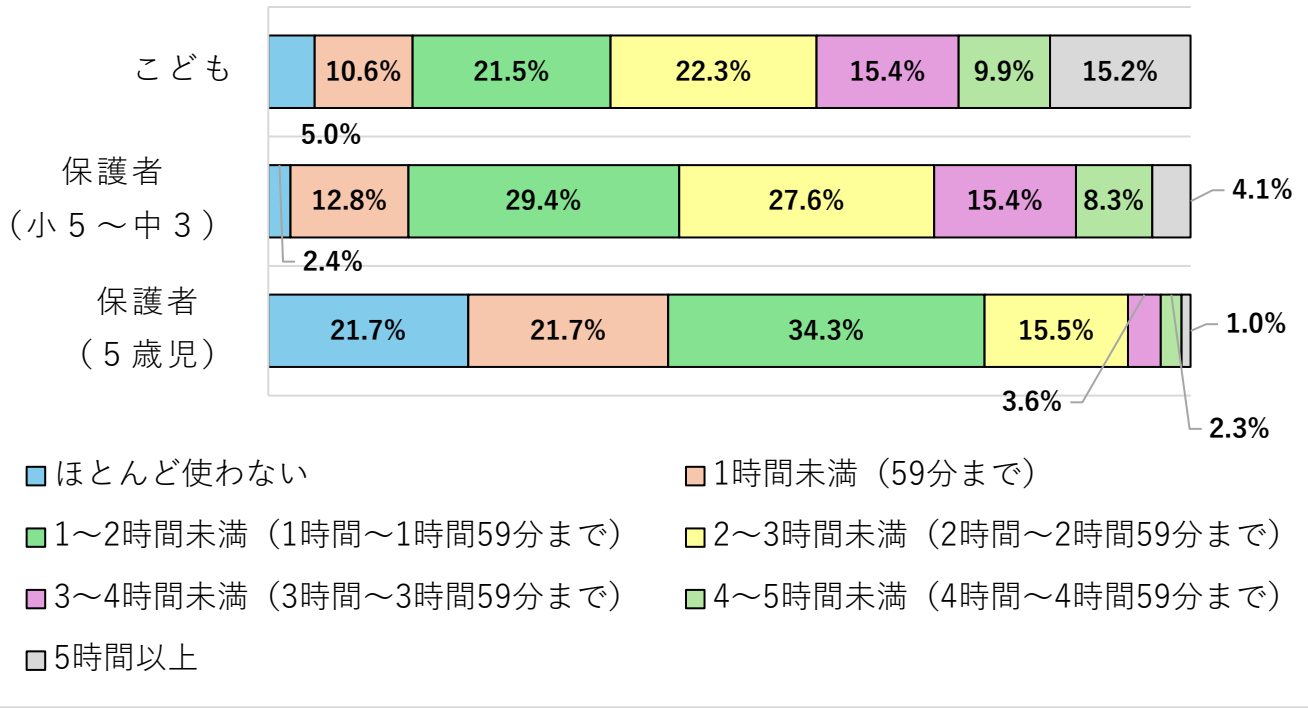
情報端末の利用時間は長時間化の傾向

設問

こども	**家で情報端末（スマートフォン、タブレット、パソコンやゲーム機など）を使う時間は平日の１日あたりどれくらいですか。**
保護者	お子さんが、家で情報端末（スマートフォン、タブレット、パソコンやゲーム機など）を使う時間は、平日の１日あたり、どれくらいですか。
保護者のみ	保護者の方の、家での情報端末　（スマートフォン、タブレット、パソコンやゲーム機など）の１日の利用時間について、最も近いものを選んでください。
市　民	こどもたちの情報端末（スマートフォン、タブレット、パソコンやゲーム機など）の使い方についてどのように感じますか。

グラフ

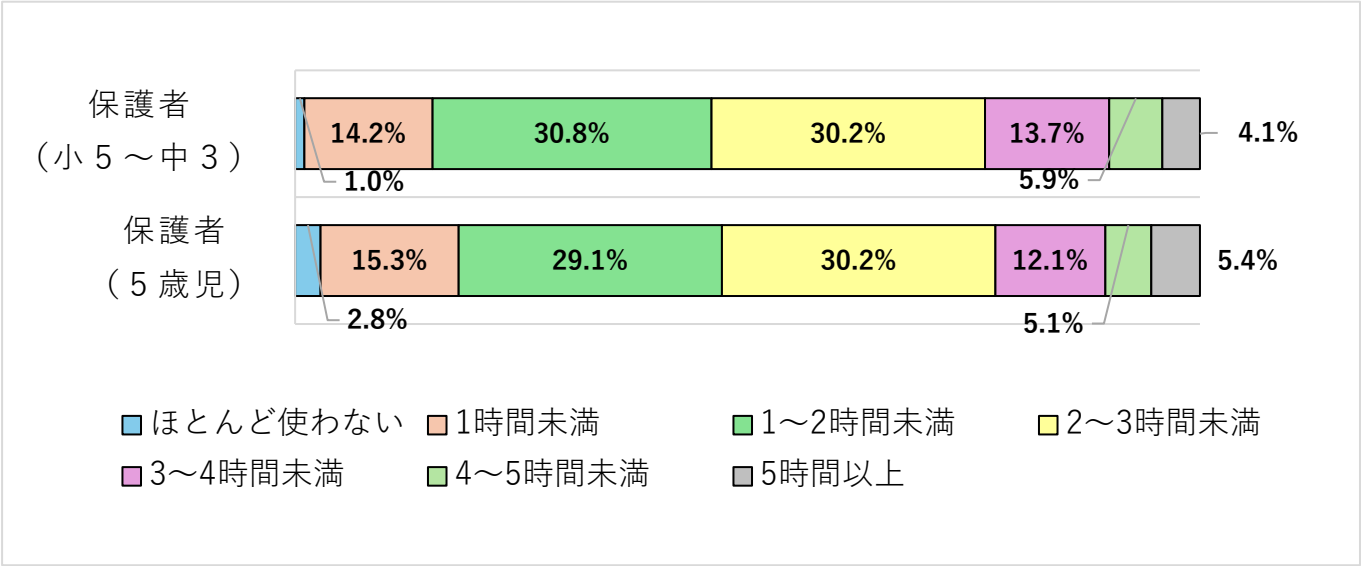
● **こどもの情報端末の利用時間（平日１日あたり）【こども・保護者】**



回答数・回答割合【こども・保護者】

項　目（１つ選択）	こども		保護者（小５～中３）		保護者（５歳児）	
ほとんど使わない	134人	5.0%	28人	2.4%	67人	21.7%
1時間未満	283人	10.6%	148人	12.8%	67人	21.7%
1～2時間未満	572人	21.5%	340人	29.4%	106人	34.3%
2～3時間未満	595人	22.3%	320人	27.6%	48人	15.5%
3～4時間未満	411人	15.4%	178人	15.4%	11人	3.6%
4～5時間未満	264人	9.9%	96人	8.3%	7人	2.3%
5時間以上	406人	15.2%	48人	4.1%	3人	1.0%

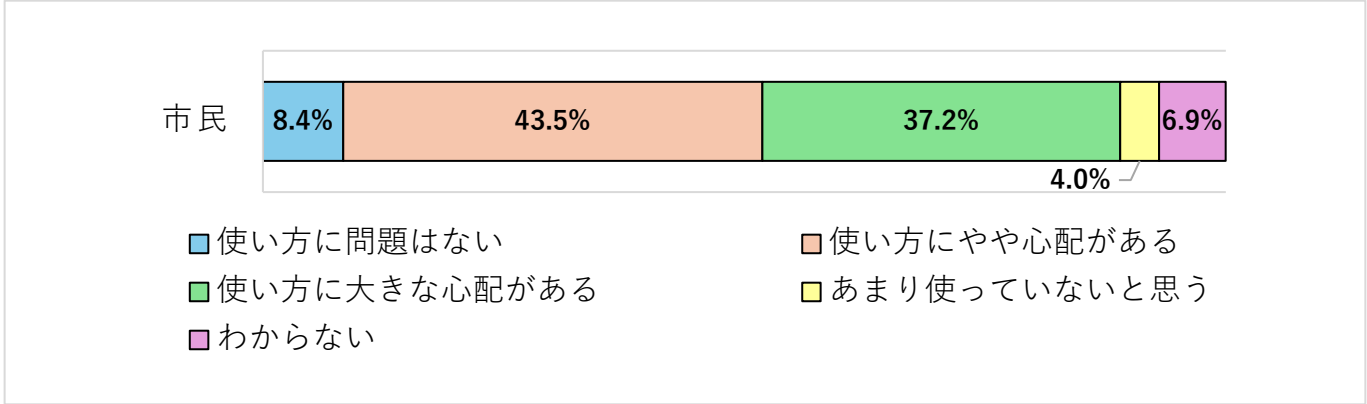
● 保護者自身の情報端末の利用時間（平日１日あたり）【保護者のみ】



回答数・回答割合【保護者のみ】

項　目（１つ選択）	保護者（小５～中３）		保護者（５歳児）	
ほとんど使わない	12人	1.0%	10人	2.8%
1時間未満	164人	14.2%	54人	15.3%
1～2時間未満	357人	30.8%	103人	29.1%
2～3時間未満	350人	30.2%	107人	30.2%
3～4時間未満	159人	13.7%	43人	12.1%
4～5時間未満	68人	5.9%	18人	5.1%
5時間以上	48人	4.1%	19人	5.4%

● **市民が感じるこどもの情報端末の利用への認識【市民】**



回答数・回答割合【市民】

項　目（１つ選択）	市民	
使い方に問題はない	29人	8.4%
使い方にやや心配がある	151人	43.5%
使い方に大きな心配がある	129人	37.2%
あまり使っていないと思う	14人	4.0%
わからない	24人	6.9%

分析

情報端末の利用について、こどもでは平日に 2 時間以上使用している割合が 62.8%となり、情報端末が日常生活の中で身近な存在となっていることが分かる。また、保護者が把握しているこどもの利用時間でも、2 時間以上の利用が 55.4%となっている。

一方、保護者自身の利用時間を見ると、1～3 時間程度利用している割合が高く、情報端末はこどもだけでなく家庭生活全体に広く浸透していることが分かる。

市民では、「使い方にやや心配がある」「使い方に大きな心配がある」を合わせると 80.7%となっており、情報端末の利用方法や生活への影響に対する関心の高さが見られる。

情報端末は、学習や情報収集などに有効なツールである一方、利用時間や生活とのバランスを考え、こども自身が適切に活用する力を育むことが重要である。

情報端末の使いすぎや生活への影響が主な課題

設問

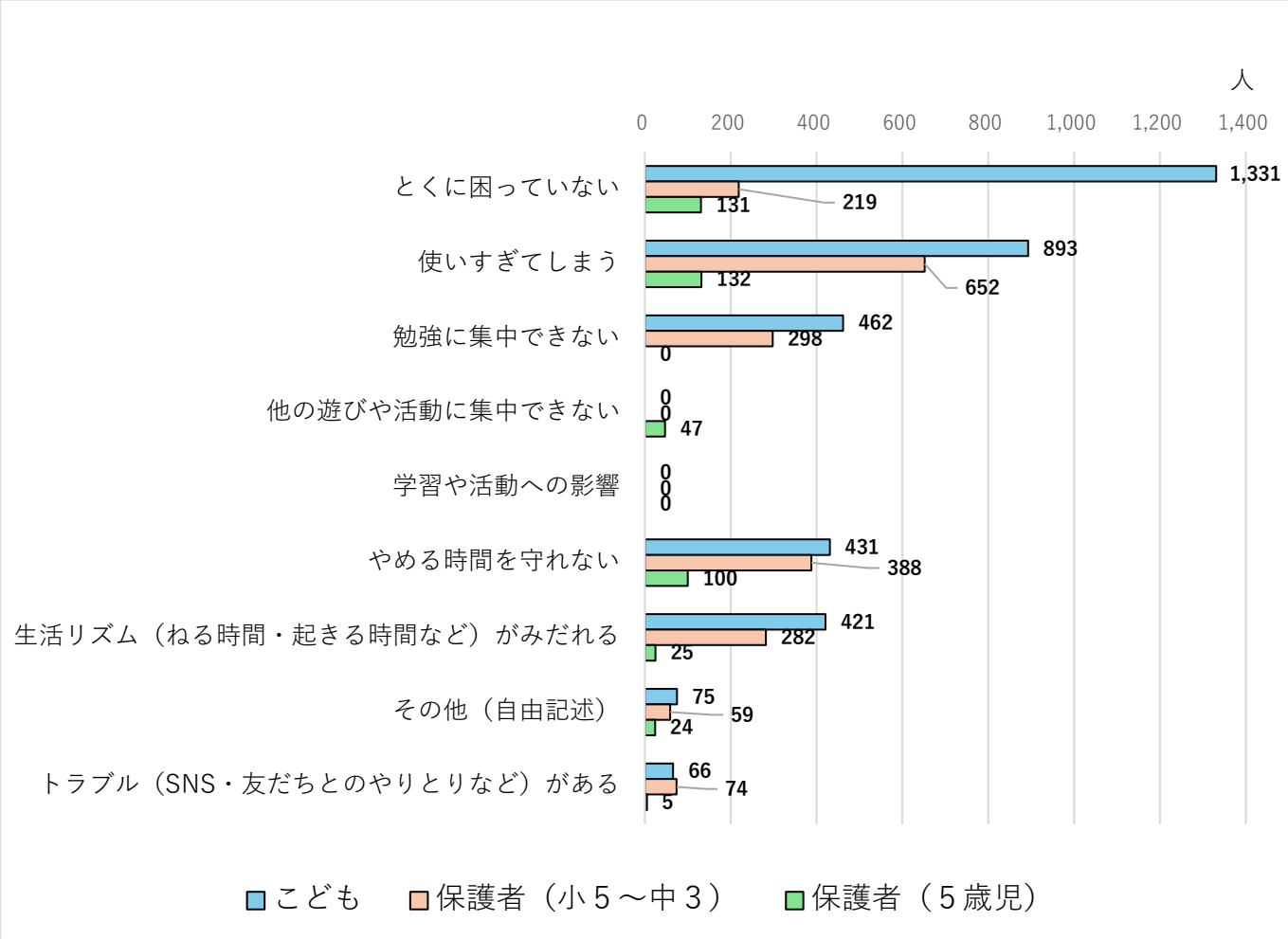
こども　**あなたは、家で情報端末　（スマートフォン、タブレット、パソコンやゲーム機など）を使うとき、困っていることがありますか。**

保護者　お子さんが、家で情報端末　（スマートフォン、タブレット、パソコンやゲーム機など）を使うとき、困っていることがありますか。

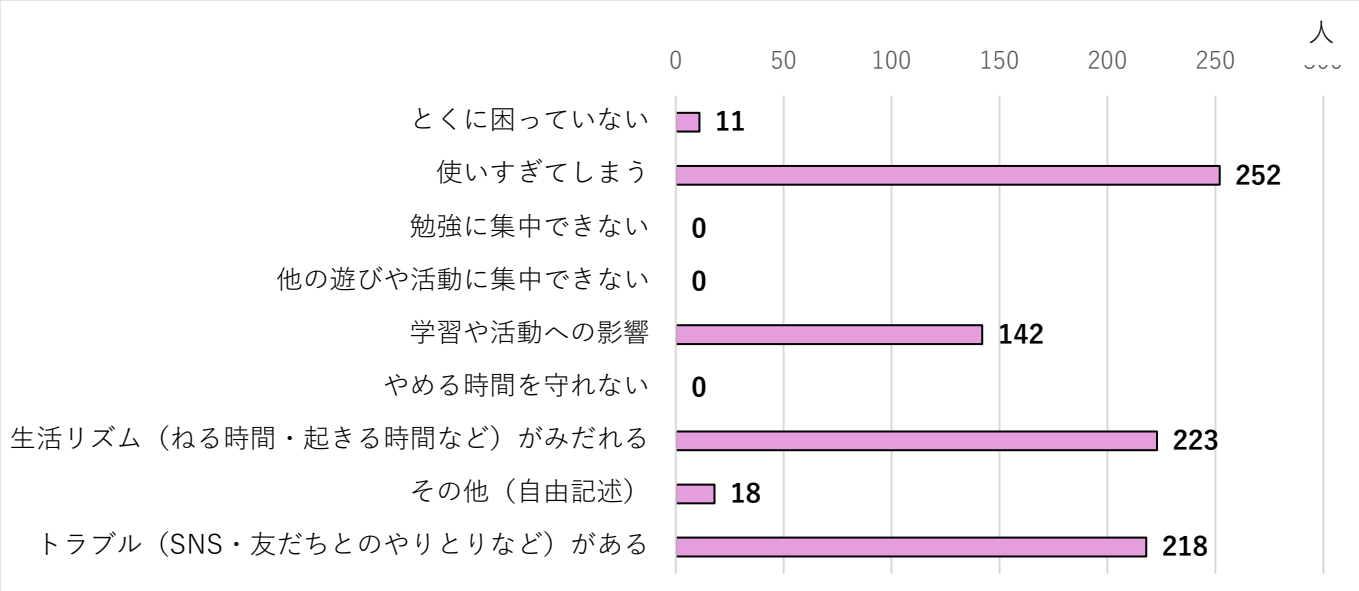
市　民　こどもたちが情報端末　（スマートフォン、タブレット、パソコンやゲーム機など）を使う上で心配なことがあれば教えてください。

グラフ

● **情報端末の利用に関する困りごと（複数回答）【こども・保護者】**



● 情報端末の利用に関する心配ごと（複数回答）【市民】



回答数・回答割合（複数回答）【こども・保護者・市民】

※項目はこどもの回答割合の高い順に掲載

項　目 （あてはまるものすべて）	こども		保護者 （小５～中３）		保護者 （５歳児）		市民	
とくに困っていない	1,331人	49.9%	219人	18.9%	131人	37.0%	11人	3.2%
使いすぎてしまう	893人	33.5%	652人	56.3%	132人	37.3%	252人	72.6%
勉強に集中できない	462人	17.3%	298人	25.7%	—	—	—	—
他の遊びや活動に集中できない	—	—	—	—	47人	13.3%	—	—
学習や活動への影響	—	—	—	—	—	—	142人	40.9%
やめる時間を守れない	431人	16.2%	388人	33.5%	100人	28.2%	—	—
生活リズム（ねる時間・起きる時間など）がみだれる	421人	15.8%	282人	24.4%	25人	7.1%	223人	64.3%
その他（自由記述）	75人	2.8%	59人	5.1%	24人	6.8%	18人	5.2%
トラブル（SNS・友だちとのやりとりなど）がある	66人	2.5%	74人	6.4%	5人	1.4%	218人	62.8%

「その他」に記載された意見の整理【こども】

情報端末の利用時間や使い方に関する悩みが多くみられ、「やめられない」「気付くと長時間使っている」といった意見がみられた。また、勉強や生活への影響、目の疲れなど健康面への不安、保護者による利用制限、ゲームや SNS に関する悩み、機器や通信環境に関する意見もあった。

「その他」に記載された意見の整理【保護者（小５～中３）】

ゲームやスマートフォンを優先することで宿題や生活習慣に影響が出ることに関する意見、学校貸与タブレットの利用制限や安全管理の強化を求める意見が多くみられた。また、視力低下や姿勢への影響、家族との会話の減少、情報端末への依存に関する意見もみられた。

「その他」に記載された意見の整理【保護者（５歳児）】

情報端末の使用時間や視聴内容の管理に関する意見がみられた。また、画面との距離や視力への影響、家族の利用による影響、動画やゲームによる言葉遣いや感情面への影響に関する意見もあった。

「その他」に記載された意見の整理【市民】

視力低下や姿勢、ブルーライトなど健康への影響に関する意見があった。また、家庭でのルールづくりや保護者による適切な管理の必要性に関する意見のほか、思考力や学習習慣への影響、犯罪や有害情報への接触に対する不安、AI の利用や親子のコミュニケーションに関する意見もみられた。

分析

情報端末の利用に関する困りごととして、こども、保護者ともに「使いすぎてしまう」という回答が多く、利用時間の管理が共通した課題となっている。

こどもでは、約半数が「とくに困っていない」と回答している一方で、「勉強に集中できない」（17.3%）、「やめる時間を守れない」（16.2%）、「生活リズムがみだれる」（15.8%）など、情報端末の利用が学習や生活習慣への影響も挙げられている。

保護者（小 5～中 3）では、「使いすぎてしまう」が 56.3%と最も高く、利用時間の管理が主な困りごととなっている。

保護者（5 歳児）では、「使いすぎてしまう」（37.3%）、「やめる時間を守れない」（28.2%）など、利用時間に関する回答が多い。

市民では、「使いすぎてしまう」（72.6%）、「生活リズムがみだれる」（64.3%）、「SNS・友だちとのやりとりなどのトラブル」（62.8%）が多く、安全な利用や人間関係への影響についても関心が高いことが分かる。

情報端末を適切に活用するため、こども自身が判断し活用する力を育むとともに、家庭と学校・園所が連携し、利用時間やルール、安全な使い方について考える機会を充実させていく必要がある。

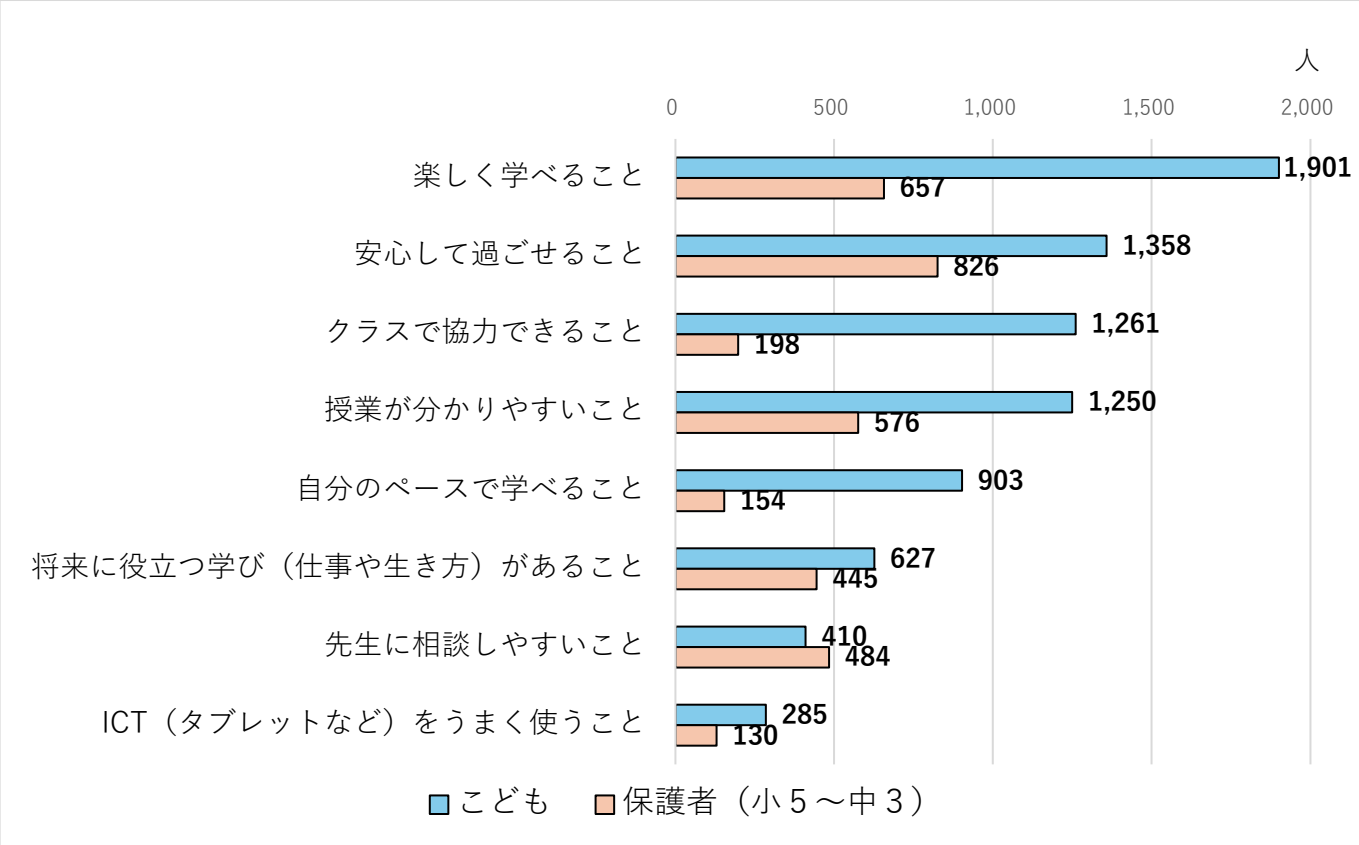
「楽しく学べること」と「安心して過ごせること」を重視

設問

こども	**あなたは、これからの学校で、特に大事だと思うことは何ですか。**
保護者（小５～中３）	これからの学校で、特に大事だと思うことは何ですか。
保護者（５歳児）	これからの園所で、特に大事だと思うことは何ですか。
市　民	これからの学校や園所で、特に大事だと思うことは何ですか。

グラフ

- **これからの学校で大切なこと（複数回答）【こども・保護者（小５～中３）】**

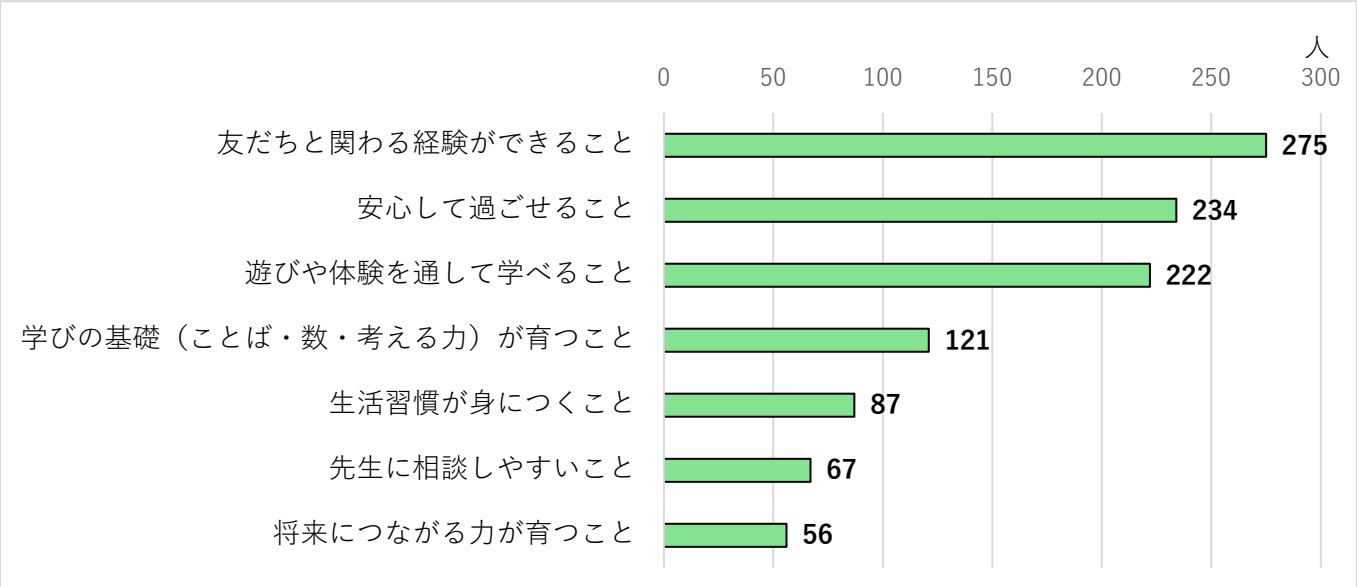


回答数・回答割合（複数回答）【こども・保護者（小５～中３）】

※項目はこどもの回答割合の高い順に掲載

項　目（３つ選択）	こども		保護者（小５～中３）	
楽しく学べること	1,901人	71.3%	657人	56.7%
安心して過ごせること	1,358人	51.0%	826人	71.3%
クラスで協力できること	1,261人	47.3%	198人	17.1%
授業が分かりやすいこと	1,250人	46.9%	576人	49.7%
自分のペースで学べること	903人	33.9%	154人	13.3%
将来に役立つ学び（仕事や生き方）があること	627人	23.5%	445人	38.4%
先生に相談しやすいこと	410人	15.4%	484人	41.8%
ICT（タブレットなど）をうまく使うこと	285人	10.7%	130人	11.2%

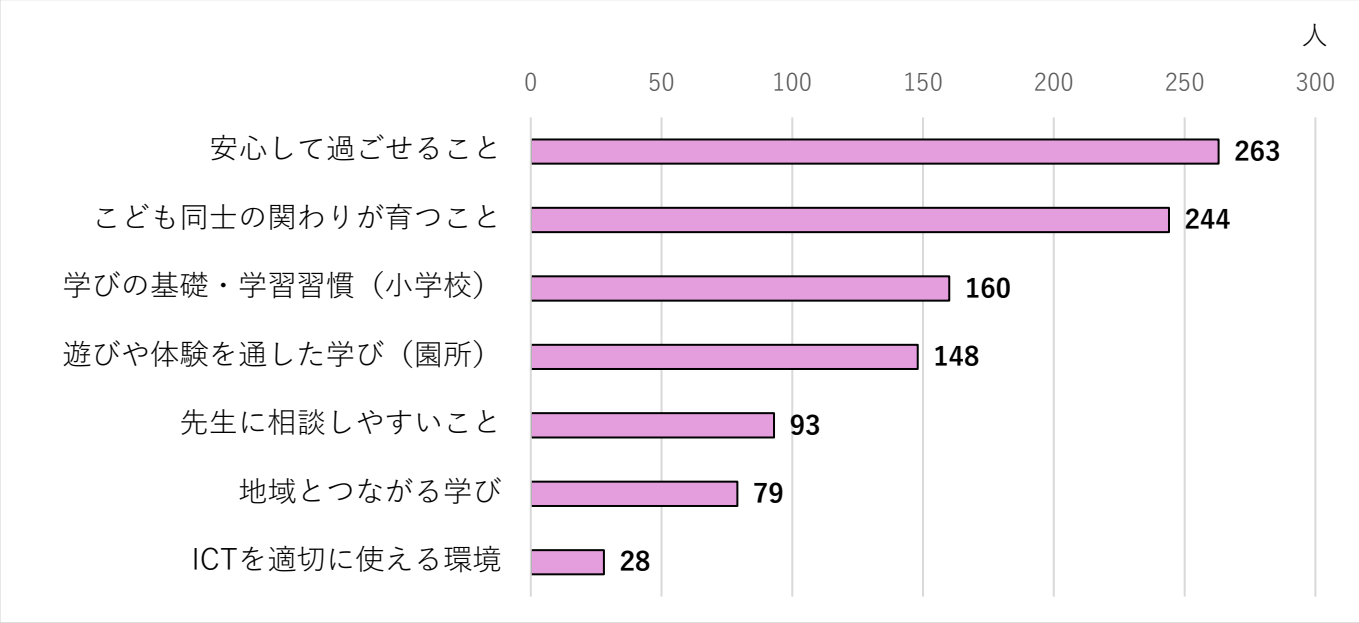
- **これからの園所で大切なこと（複数回答）【保護者（５歳児）】**



回答数・回答割合（複数回答）【保護者（５歳児）】　※項目は回答割合の高い順に掲載

項　目（３つ選択）	保護者（５歳児）	
友だちと関わる経験ができること	275人	77.7%
安心して過ごせること	234人	66.1%
遊びや体験を通して学べること	222人	62.7%
学びの基礎（ことば・数・考える力）が育つこと	121人	34.2%
生活習慣が身につくこと	87人	24.6%
先生に相談しやすいこと	67人	18.9%
将来につながる力が育つこと	56人	15.8%

- **これからの学校や園所で大切なこと（複数回答）【市民】**



回答数・回答割合（複数回答）【市民】　※項目は回答割合の高い順に掲載

項　目（３つ選択）	市民	
安心して過ごせること	263人	75.8%
こども同士の関わりが育つこと	244人	70.3%
学びの基礎・学習習慣（小学校）	160人	46.1%
遊びや体験を通した学び（園所）	148人	42.7%
先生に相談しやすいこと	93人	26.8%
地域とつながる学び	79人	22.8%
ICTを適切に使える環境	28人	8.1%

分析

こども、保護者、市民の回答から、学校・園所には、安心して過ごせる環境を基盤として、人との関わりや体験を通して学び、成長できる場としての役割が求められていることが分かる。

こどもでは、「楽しく学べること」が 71.3%と最も高く、「クラスで協力できること」や「授業が分かりやすいこと」も上位となっており、楽しく学ぶことに加え、仲間と関わりながら学ぶことへの期待が高い。

保護者（小 5～中 3）では、「安心して過ごせること」が 71.3%と最も高く、「楽しく学べること」56.7%、「授業が分かりやすいこと」49.7%、「先生に相談しやすいこと」41.8%などが続いており、安心できる環境と学びの充実の両方が重視されている。

5 歳児保護者では「友だちと関わる経験ができること」、市民では「安心して過ごせること」や「こども同士の関わりが育つこと」が特に高く、幼児期から、人との関わりや遊び・体験を通して学ぶ機会が重視されている。

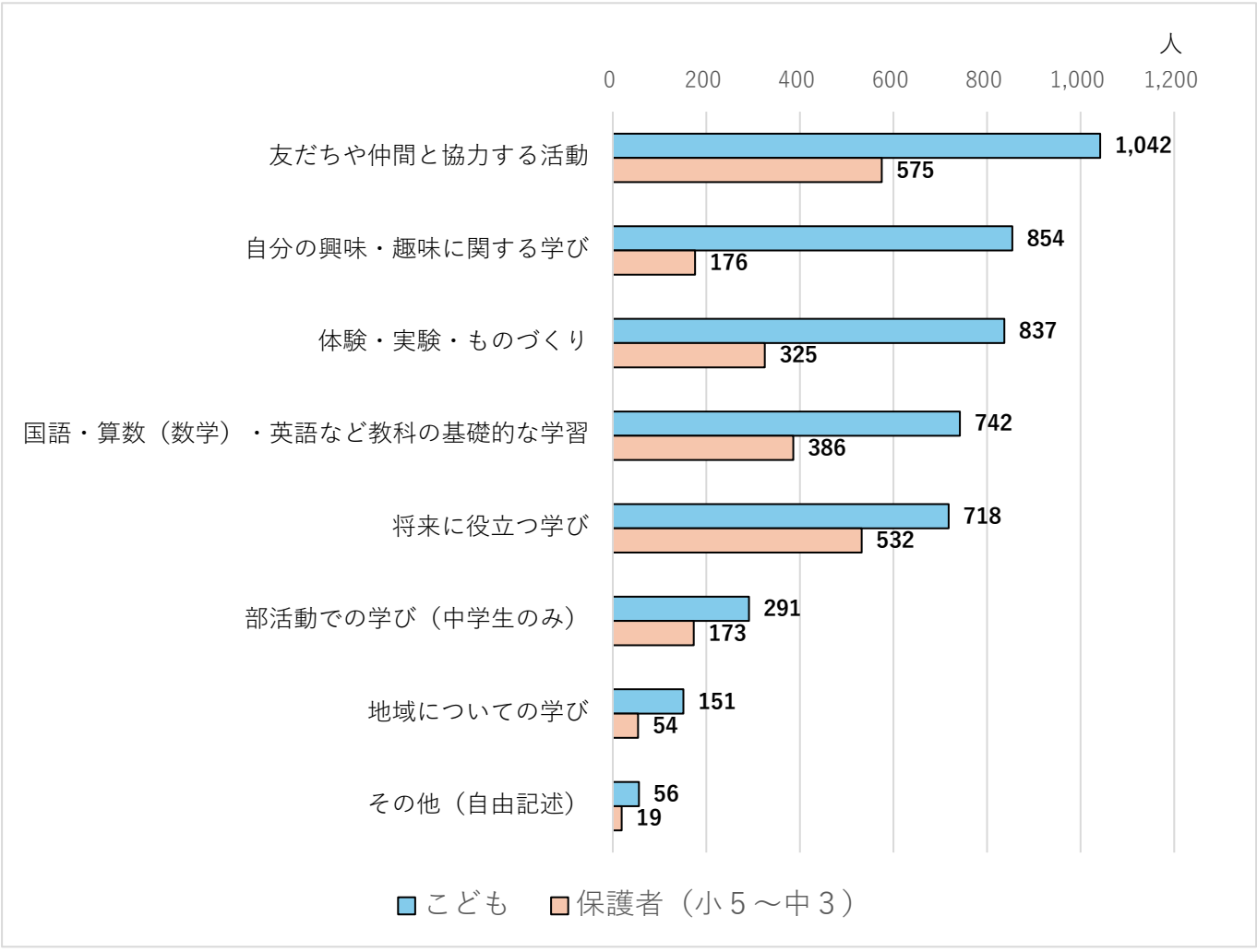
仲間との関わりを通した学びへの期待が高い

設問

こども	**あなたは、学校の外も含めて、どんなことをもっと学びたいですか。**
保護者（小５～中３）	学校内外で、お子さんにどんな学びを経験してほしいと思いますか。
保護者（５歳児）	お子さんにどんな経験や学びをしてほしいと思いますか。
市　民	こどもたちに、どんな経験や学びをしてほしいと思いますか。

グラフ

● **これからの学び・経験（複数回答）【こども・保護者（小５～中３）】**



回答数・回答割合（複数回答）【こども・保護者（小５～中３）】

※項目はこどもの回答割合の高い順に掲載

項　目（２つまで）	こども		保護者（小５～中３）	
友だちや仲間と協力する活動	1,042人	39.1%	575人	49.7%
自分の興味・趣味に関する学び	854人	32.0%	176人	15.2%
体験・実験・ものづくり	837人	31.4%	325人	28.1%
国語・算数（数学）・英語など教科の基礎的な学習	742人	27.8%	386人	33.3%
将来に役立つ学び	718人	26.9%	532人	45.9%
部活動での学び（中学生のみ）	291人	10.9%	173人	14.9%
地域についての学び	151人	5.7%	54人	4.7%
その他（自由記述）	56人	2.1%	19人	1.6%

「その他」に記載された意見の整理【こども】

ICT やプログラミング、将来や仕事に関する学び、スポーツ、文化・芸術など、多様な分野への関心が見られた。

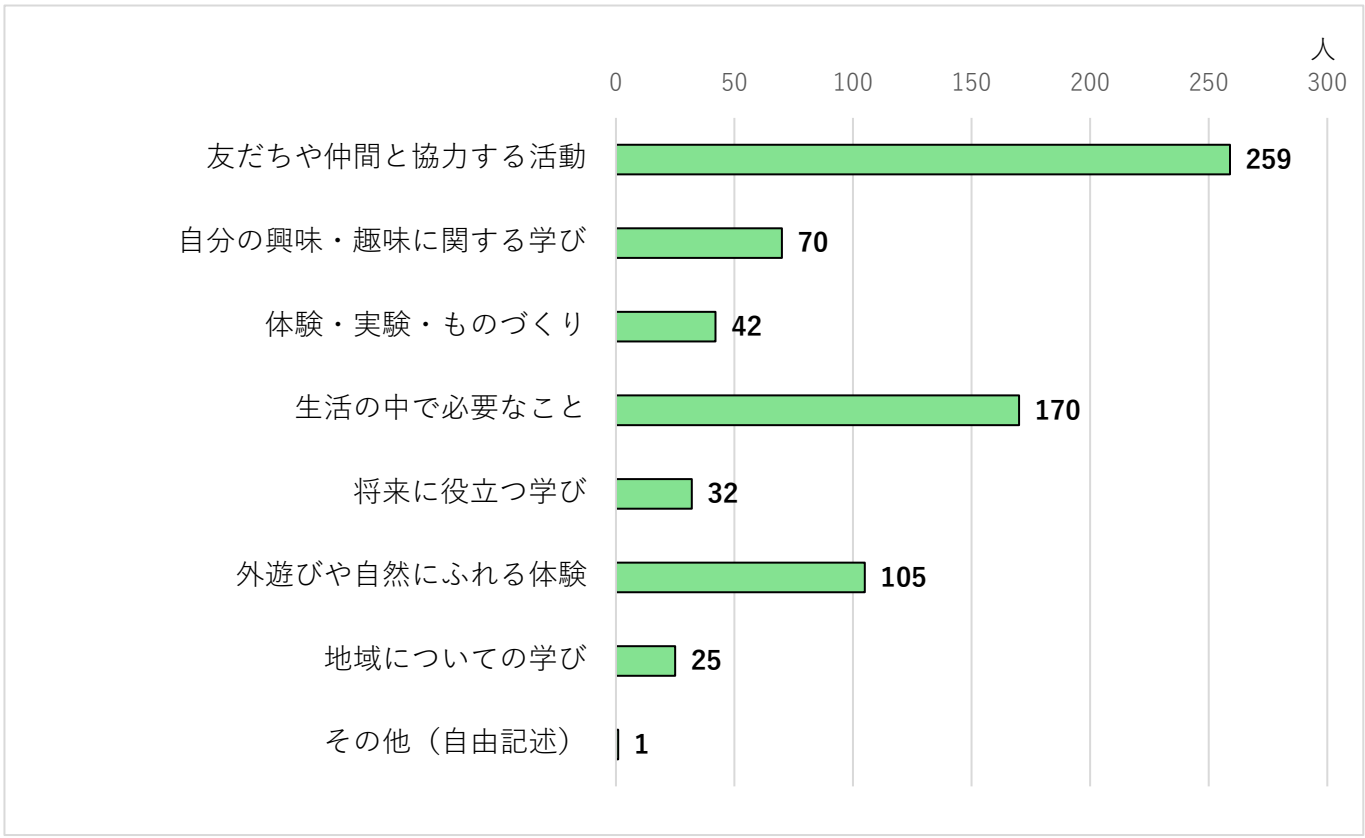
また、人との関わり方や体験活動など、学校での学習以外の学びを求める意見もあった。

一方で、「特にない」「分からない」といった回答も見られた。

「その他」に記載された意見の整理【保護者（小５～中３）】

金融、政治、情報モラル、性教育など、社会で役立つ実践的な学びや、自己理解、多様性、マナー、人間関係など人格形成につながる学びに関する意見が見られた。また、体力づくりや運動、自然体験・芸術体験の充実を求める意見も見られた。

● **これからの学び・経験（複数回答）【保護者（５歳児）】**



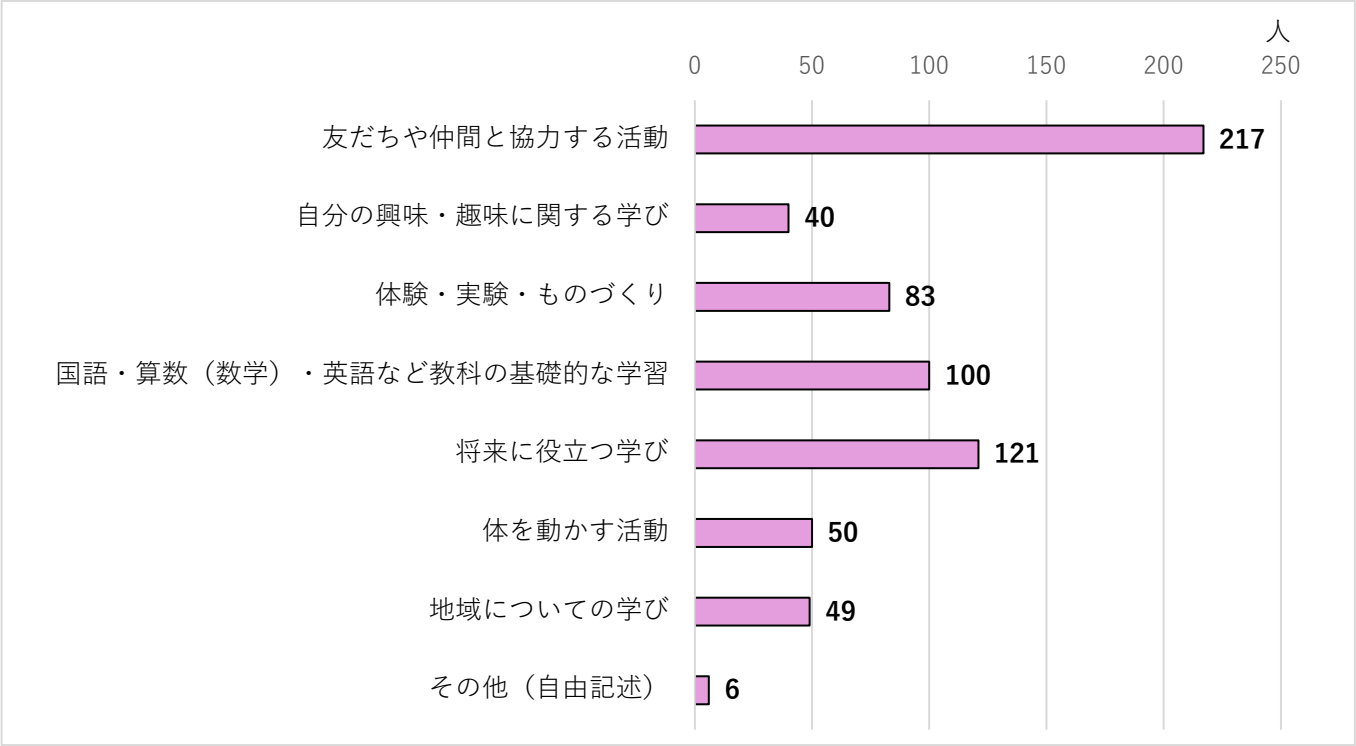
回答数・回答割合（複数回答）【保護者（５歳児）】　　※項目は回答割合の高い順に掲載

項　目（２つまで）	保護者（５歳児）	
友だちといっしょに遊んだり、協力したりする経験	259人	73.2%
生活の中で必要なこと	170人	48.0%
外遊びや自然にふれる体験	105人	29.7%
お子さんの好きなこと・趣味を伸ばす経験	70人	19.8%
ものを作ったり、ためしたりする経験	42人	11.9%
将来につながるような、いろいろな人や仕事にふれる経験	32人	9.0%
地域の行事や身近な環境にふれる経験	25人	7.1%
その他（自由記述）	1人	0.3%

「その他」に記載された意見の整理【保護者（５歳児）】

どれもしてほしいため選べない

● **これからの学び・経験（複数回答）【市民】**



回答数・回答割合【市民】　　※項目は回答割合の高い順に掲載

項　目（２つまで）	市民	
友だちや仲間と協力する活動	217人	62.5%
将来に役立つ学び	121人	34.9%
国語・算数（数学）・英語など教科の基礎的な学習	100人	28.8%
体験・実験・ものづくり	83人	23.9%
体を動かす活動	50人	14.4%
地域についての学び	49人	14.1%
自分の興味・趣味に関する学び	40人	11.5%
その他（自由記述）	6人	1.7%

「その他」に記載された意見の整理【市民】

健康やマネーリテラシーなど、実生活に役立つ学びに関する意見が見られた。

また、こども同士の話し合いや主体的な課題解決の機会の充実を求める意見もあった。

先進的な教育実践を参考にすべきとの意見や、年齢や発達段階に応じて学びの内容は異なるとの意見もあった。

分析

こども、保護者、市民の回答から、「友だちや仲間と協力する活動」が各対象で上位に挙げられており、人との関わりを通した学びが重視されていることが分かる。

こどもでは、「自分の興味・趣味に関する学び」や「体験・実験・ものづくり」などが多く、自分の関心に応じた学びや体験への期待が高い。

保護者（小５～中３）では、「将来に役立つ学び」や「教科の基礎的な学習」も多く、将来や学習の基礎を意識した学びへの期待が見られる。

保護者（５歳児）では、「生活の中で必要なこと」や「外遊びや体験にふれる体験」など、日常生活や体験を重視する傾向が見られる。

市民では、「将来に役立つ学び」や「教科の基礎的な学習」に加え、「地域についての学び」も挙げられており、社会とのつながりを意識した学びへの期待も見られる。

これからの学校・園所では、知識や技能を身につけるだけでなく、体験や対話、人との関わりを通して考え、行動する力を育む学びの充実が求められている。

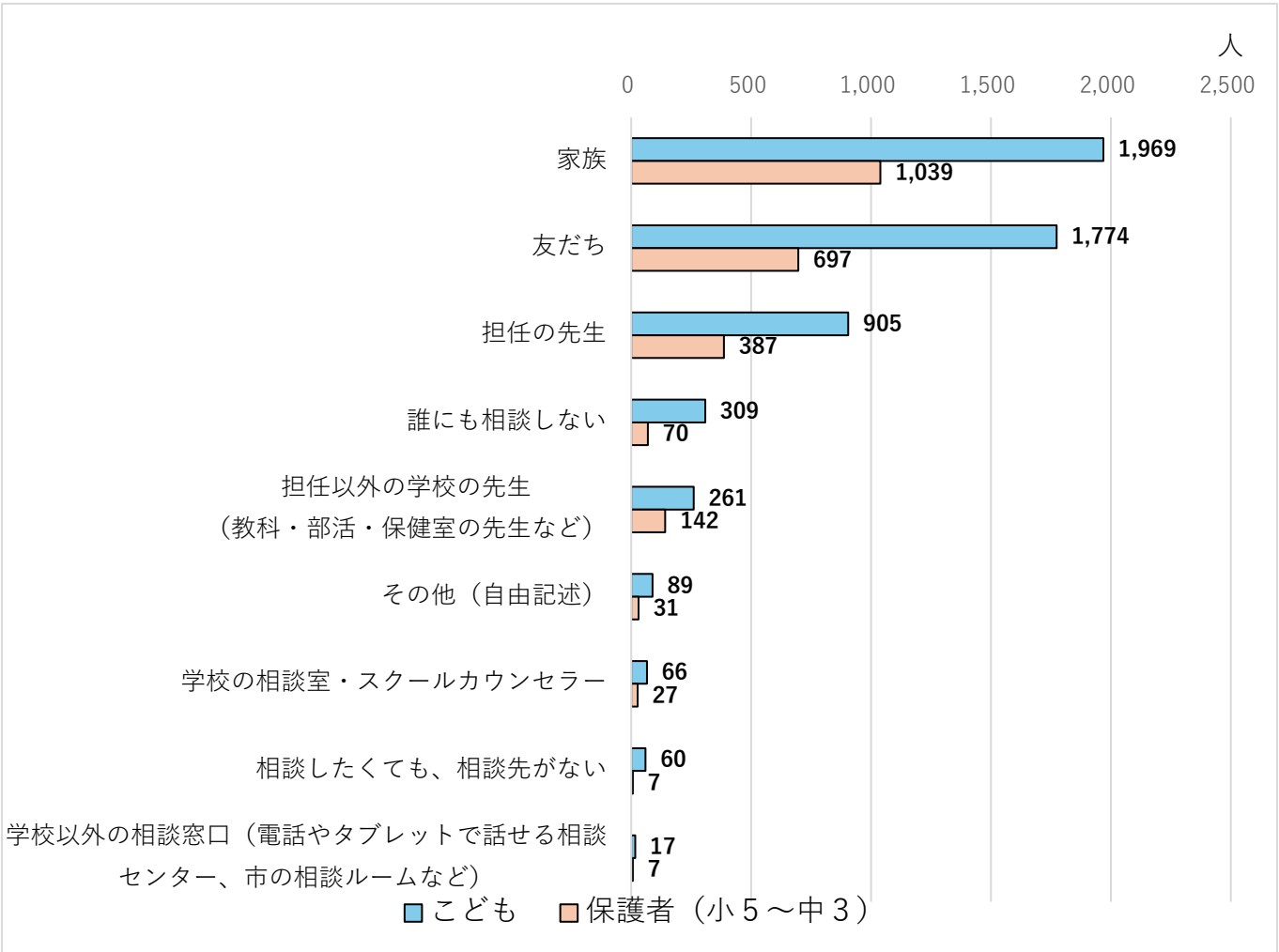
家族や友だちとのつながりが、こどもの支えとなっている

設問

こども	**あなたは、相談したいことがあるとき、だれに（どこに）相談していますか。**
保護者（小５～中３）	お子さんは相談したいことがあるとき、だれに（どこに）相談していると思いますか。
保護者（５歳児）	お子さんは、困ったときや不安なとき、どうしていることが多いと思いますか。
市　民	こどもたちは、困ったときや不安なときに、だれに（どこに）相談していると思いますか。

グラフ

● **困ったときの相談先（複数回答）【こども・保護者（小５～中３）】**



回答数・回答割合（複数回答）【こども・保護者（小５～中３）】

※項目はこどもの回答割合の高い順に掲載

項　目（あてはまるものすべて）	こども		保護者（小５～中３）	
家族	1,969人	73.9%	1,039人	89.7%
友だち	1,774人	66.6%	697人	60.2%
担任の先生	905人	34.0%	387人	33.4%
誰にも相談しない	309人	11.6%	70人	6.0%
担任以外の学校の先生（教科・部活・保健室の先生など）	261人	9.8%	142人	12.3%
学校の相談室・スクールカウンセラー	66人	2.5%	27人	2.3%
相談したくても、相談先がない	60人	2.3%	7人	0.6%
学校以外の相談窓口 （電話やタブレットで話せる相談センター、市の相談ルームなど）	17人	0.6%	7人	0.6%
その他（自由記述）	89人	3.3%	31人	2.7%

「その他」に記載された意見の整理【こども】

「相談することがない」「自分で解決する」といった意見のほか、家族や親族、AI やインターネットを相談先として挙げる意見があった。

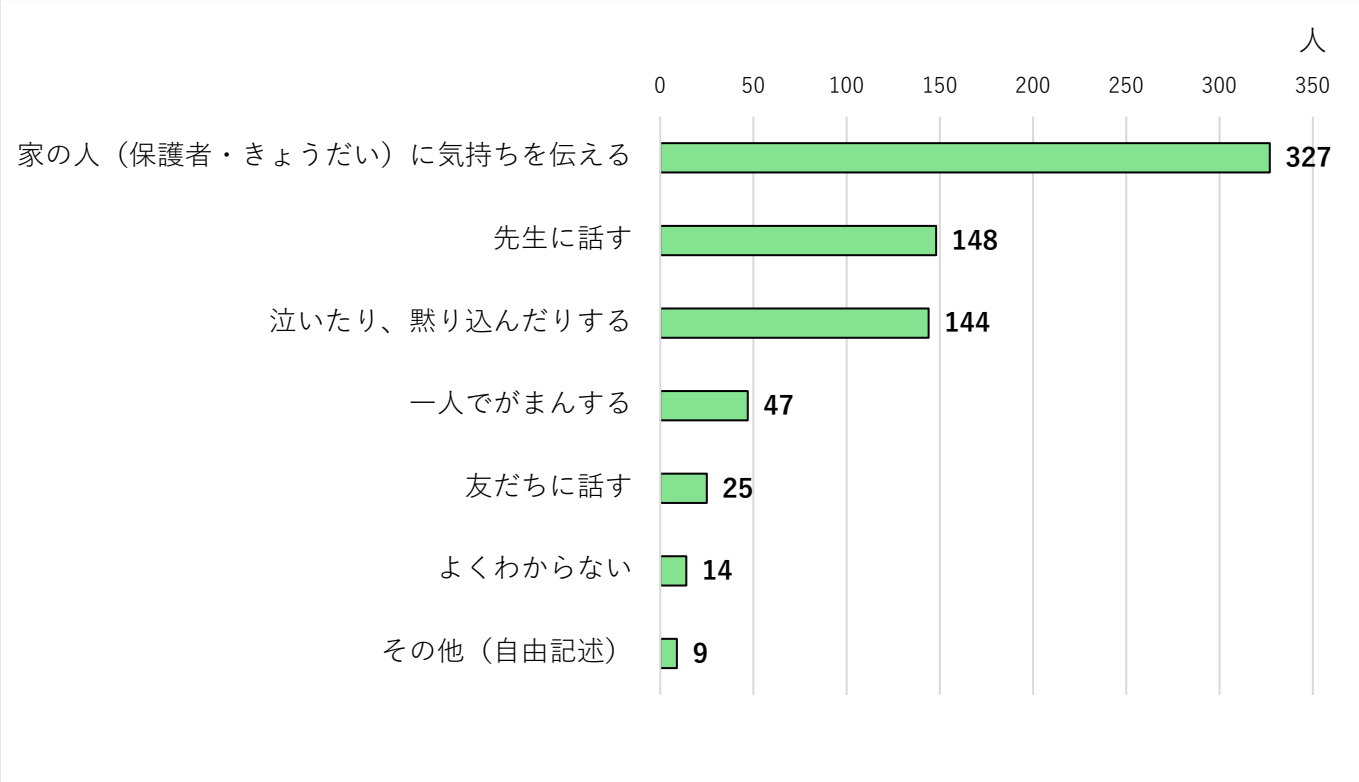
また、「相談できる人がいない」「相談したくない」といった意見も一部見られた。

「その他」に記載された意見の整理【保護者（小５～中３）】

祖父母や兄弟、親戚など家族・親族や、習い事・塾・フリースクールなど学校外の大人を相談先として挙げる意見が見られた。

また、相談せず自分で解決しているという意見や、AI を相談相手として利用しているという意見も見られた。

● こどもの相談・気持ちの表し方（複数回答）【保護者（５歳児）】



回答数・回答割合（複数回答）【保護者（５歳児）】　※項目は回答割合の高い順に掲載

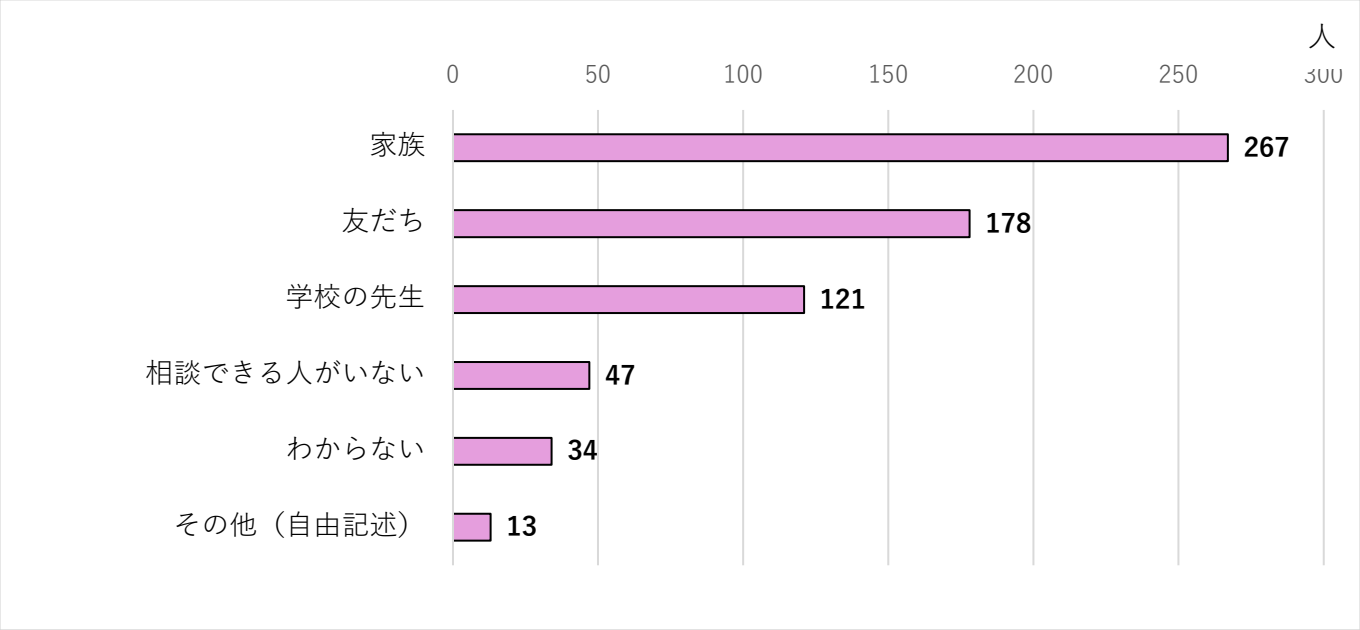
項　目（あてはまるものすべて）	保護者（５歳児）	
家の人（保護者・きょうだい）に気持ちを伝える	327人	92.4%
先生に話す	148人	41.8%
泣いたり、黙り込んだりする	144人	40.7%
一人でがまんする	47人	13.3%
友だちに話す	25人	7.1%
よくわからない	14人	4.0%
その他（自由記述）	9人	2.5%

「その他」に記載された意見の整理【保護者（５歳児）】

癇癪や泣く、怒るなど、感情を行動で表現することに関する意見が見られた。

また、自分の思いを言葉で伝えることの難しさや、家庭と園所での様子の違いに関する意見も見られた。

● **困ったときのこどもの相談先（複数回答）【市民】**



回答数・回答割合（複数回答）【市民】　※項目は回答割合の高い順に掲載

項　目（あてはまるものすべて）	市民	
家族	267人	76.9%
友だち	178人	51.3%
学校の先生	121人	34.9%
相談できる人がいない	47人	13.5%
わからない	34人	9.8%
その他（自由記述）	13人	3.7%

「その他」に記載された意見の整理【市民】

AI（ChatGPT 等）に相談する意見が多く見られた。

また、一人で悩みを抱え込まず、気持ちを受け止めてもらえる環境や相談できる場を求める意見、SNS やインターネット上での相談、信頼できる人に相談するという意見もあった。

分析

こどもが困ったときの相談先として、家族や友だちなど身近な人とのつながりが大きな役割を果たしていることが分かる。また、学校の先生も一定の相談先として認識されている。

一方で、「誰にも相談しない」「相談できる人がいない」と感じているこどももいることから、相談しやすい関係づくりや、多様な相談先を知る機会の充実が求められる。

特に、こどもが困りごとを抱えた際に、自分に合った方法で気持ちを表現し、安心して助けを求められる環境づくりが重要である。

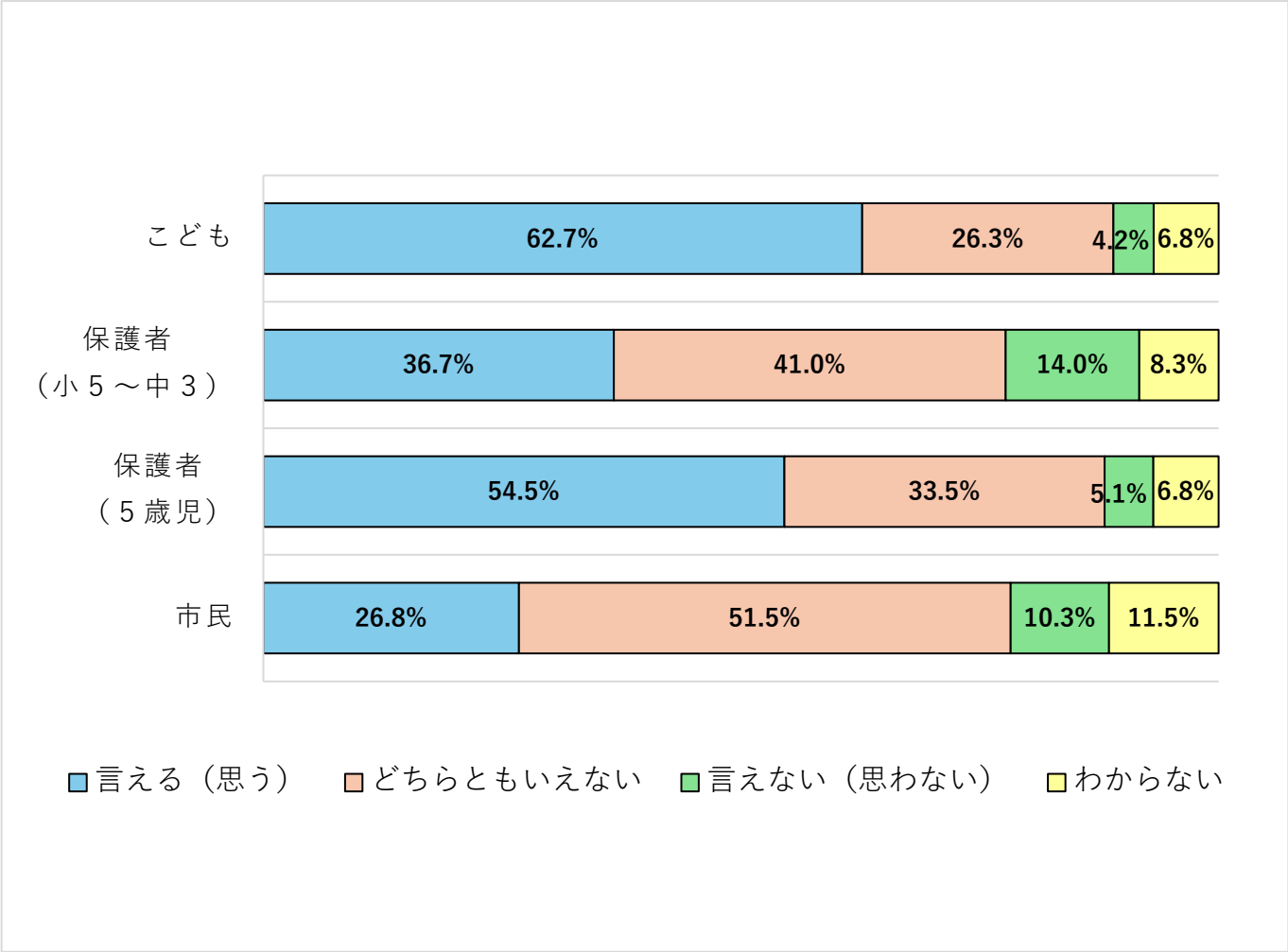
こどもは自分の考えを伝えられていると感じている

設問

こども	**授業や友だちとの話し合いのとき、安心して自分の考えを言えますか。**
保護者（小５～中３）	お子さんは授業や話し合いで、自分の考えを安心して言えていると思いますか。
保護者（５歳児）	お子さんは園（所）で、自分の気持ちや考えを安心して言えていると思いますか。
市　民	こどもたちは、自分の気持ちや考えを安心して言えていると思いますか。

グラフ

● **自分の考えや気持ちを安心して伝えられる状況【こども・保護者・市民】**



回答数・回答割合【こども・保護者・市民】

項　目（１つ選択）	こども		保護者（小５～中３）		保護者（５歳児）		市民	
言える（思う）	1,670人	62.7%	425人	36.7%	192人	54.5%	91人	26.8%
どちらともいえない	702人	26.3%	475人	41.0%	118人	33.5%	175人	51.5%
言えない（思わない）	111人	4.2%	162人	14.0%	18人	5.1%	35人	10.3%
わからない	182人	6.8%	96人	8.3%	24人	6.8%	39人	11.5%

分析

こどもでは、「言える（思う）」が 62.7%と最も高く、自分の考えを安心して伝えられていると感じている割合が高い。5 歳児保護者でも 54.5%と比較的高く、こどもが安心して気持ちや考えを表現できていると感じている。

一方、保護者（小 5～中 3）では「どちらともいえない」が 41.0%、市民では 51.5%と最も高く、こどもや 5 歳児保護者と比べて、「言える（思う）」とする割合が低くなっている。

こどもが安心して発言できる環境をつくるためには、日頃から互いの考えを認め合う関係づくりや、失敗や間違いを恐れずに表現できる学びの場づくりが重要である。

園所では安心して過ごせると感じている

設問

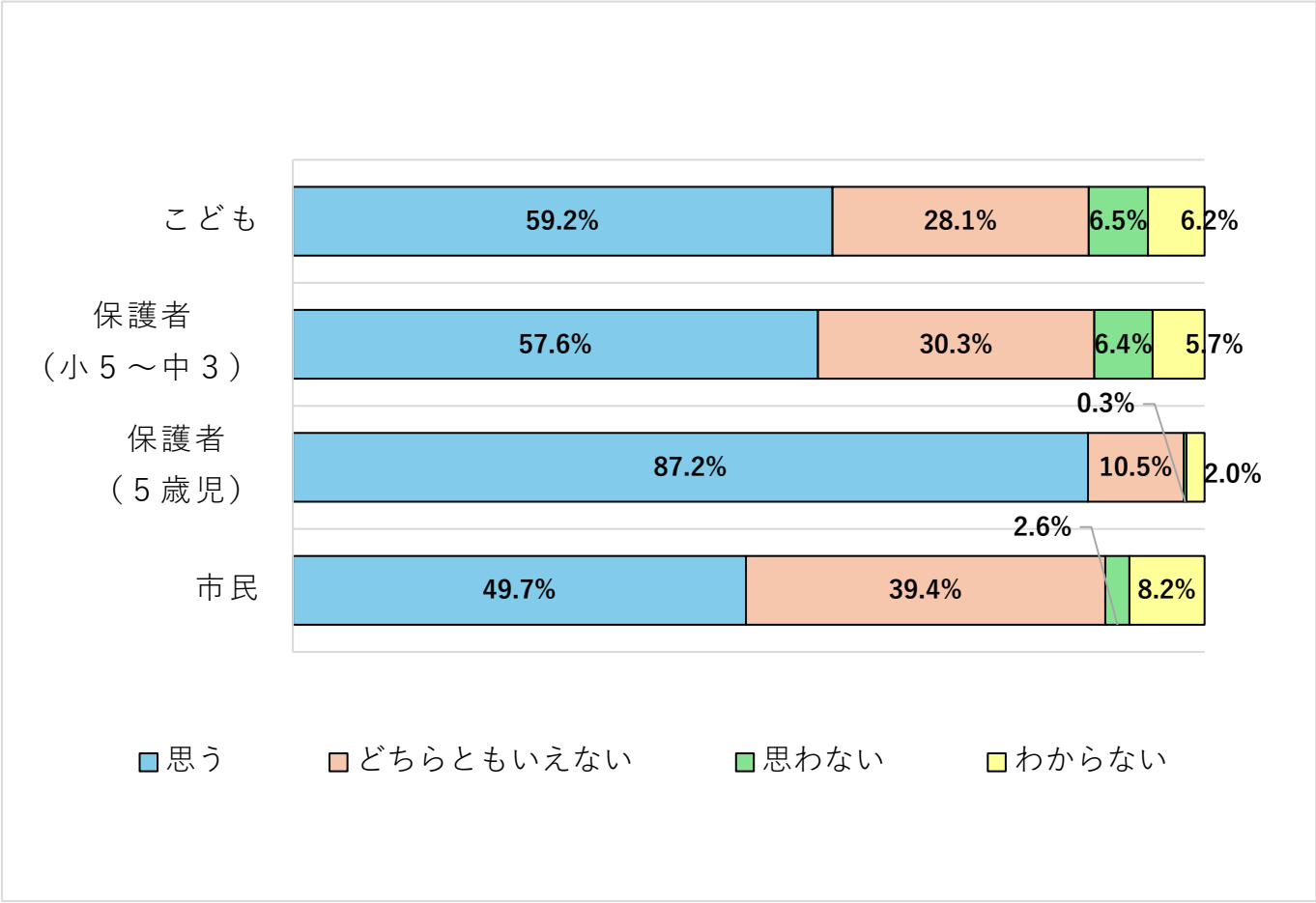
こども　あなたは、学校で過ごすときに学校が「安心していられる場所」だと思いますか。

保護者　お子さんは学校（園所）を「安心して過ごせる場所」だと感じていると思いますか。

市　民　学校や園（所）はこどもにとって「安心して過ごせる場所」だと思いますか。

グラフ

● **学校・園所を安心して過ごせる場所と感じる状況【こども・保護者・市民】**



回答数・回答割合【こども・保護者・市民】

項　目（１つ選択）	こども		保護者（小５～中３）		保護者（５歳児）		市民	
思う	1,578人	59.2%	667人	57.6%	307人	87.2%	169人	49.7%
どちらともいえない	749人	28.1%	351人	30.3%	37人	10.5%	134人	39.4%
思わない	172人	6.5%	74人	6.4%	1人	0.3%	9人	2.6%
わからない	166人	6.2%	66人	5.7%	7人	2.0%	28人	8.2%

分析

園所については、保護者（5 歳児）の多くが安心して過ごせる場所と感じており、幼児期における安心できる環境づくりが進んでいることが分かる。

一方、学校については、こどもや保護者の半数以上が安心して過ごせる場所と感じているものの、「どちらともいえない」と回答した割合も一定数ある。

また、市民では「どちらともいえない」の割合が他と比べて高く、学校や園所でのこどもの様子を外部から把握することの難しさが表れている。

安心して過ごせる環境づくりには、施設や設備だけでなく、こども同士の関係性、教職員との信頼関係、困ったときに支えられる仕組みなど、多面的な取組が必要である。

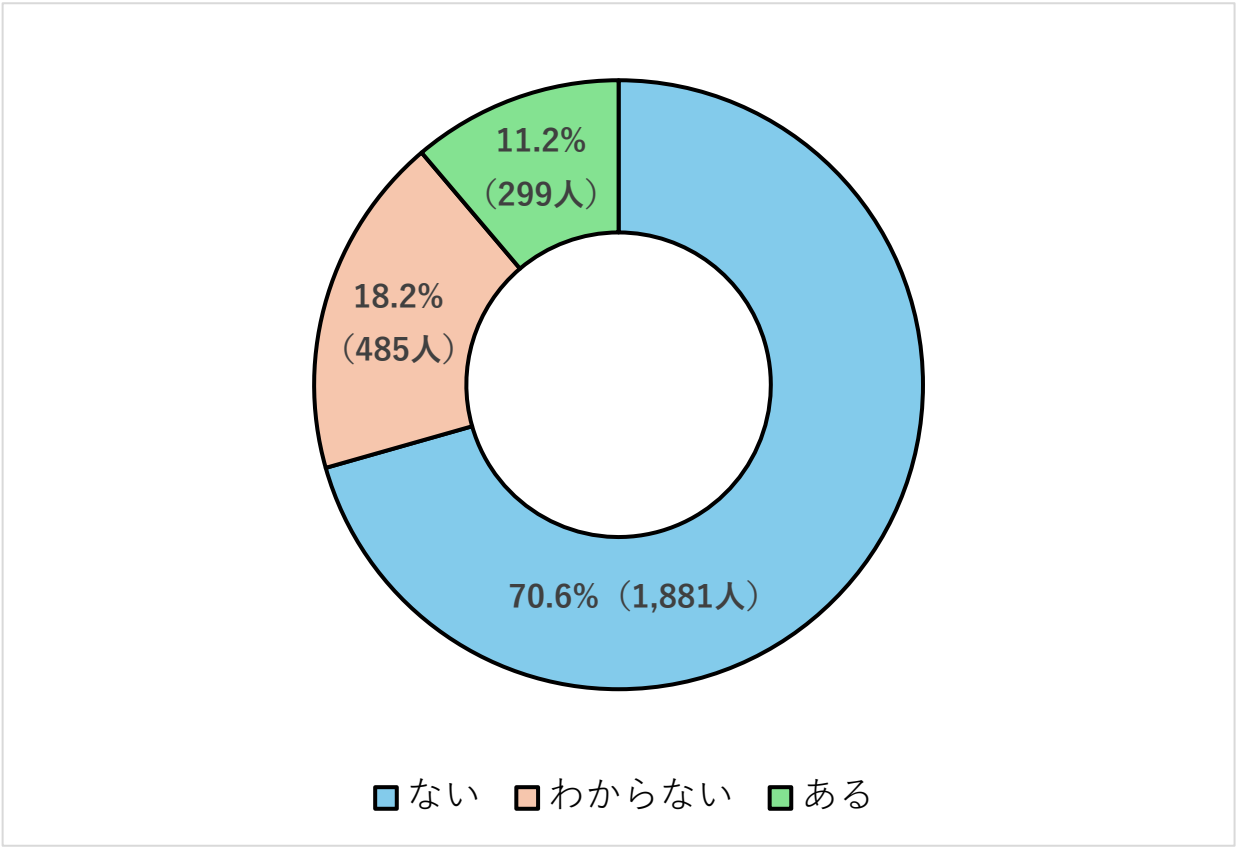
こどもは、学習や生活、友だち関係などに困りごとを感じている

設問

こども	あなたは、学校に行くことや学ぶことについて、困りごとはありますか。
「ある」と回答したこども（299 人）のみ	学校に行くことや学ぶことの中で、特にどんなことに困っていますか。
保護者（小５～中３）	お子さんが、学校に行くことや学ぶことの中で、どんなことにむずかしさを感じていると思いますか。
保護者（５歳児）	お子さんが、生活や園所で困っていることがあれば教えてください。
市　民	こどもたちが、生活や学校・園（所）で困っていそうなことがあれば教えてください。

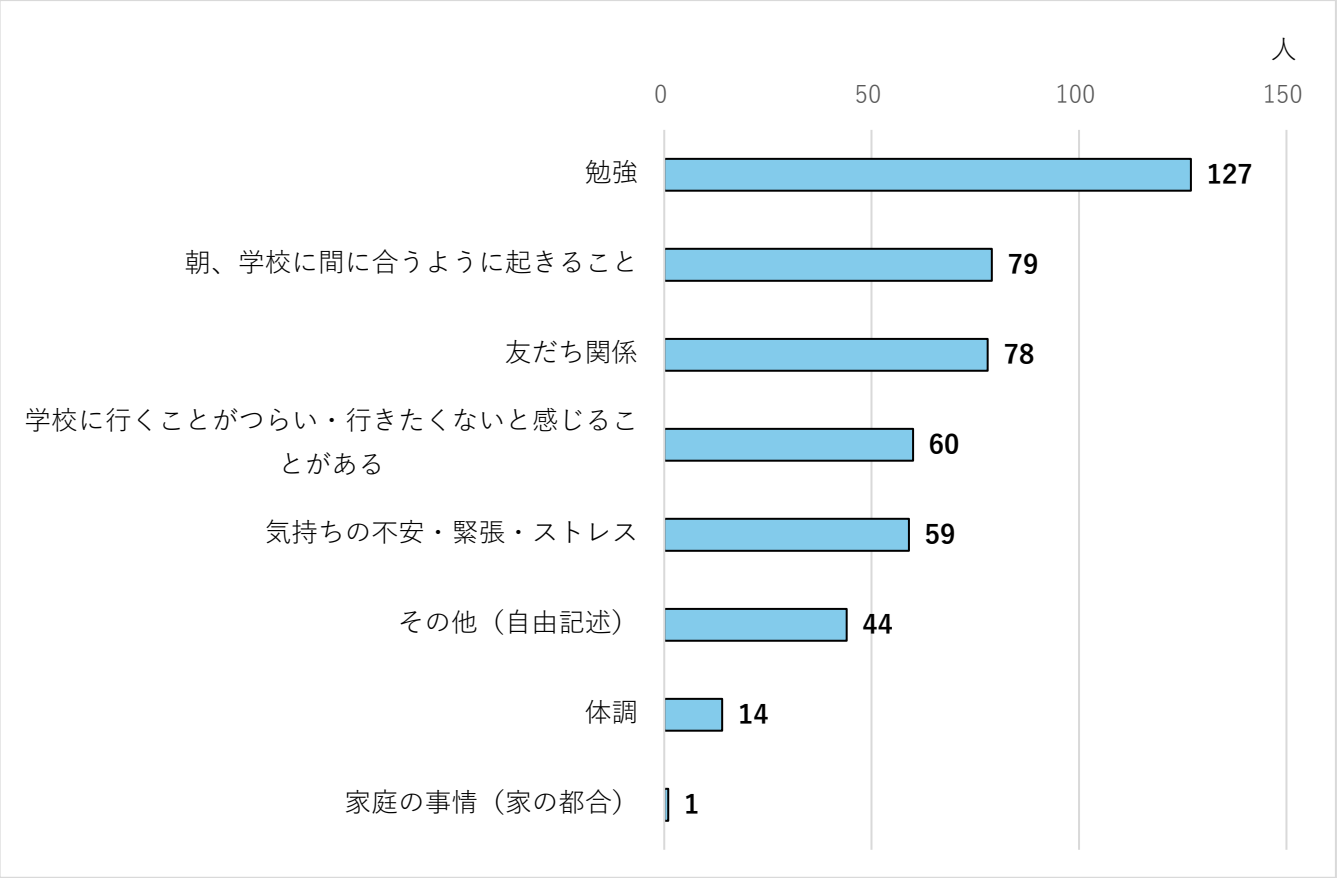
グラフ

● 学校に行くことや学ぶことの困りごとの有無【こどものみ】



【あると回答したこども（299 人）】

- 学校に行くことや学ぶことの困りごと（複数回答）



回答数・回答割合（複数回答）【あると回答したこども（299 人）】

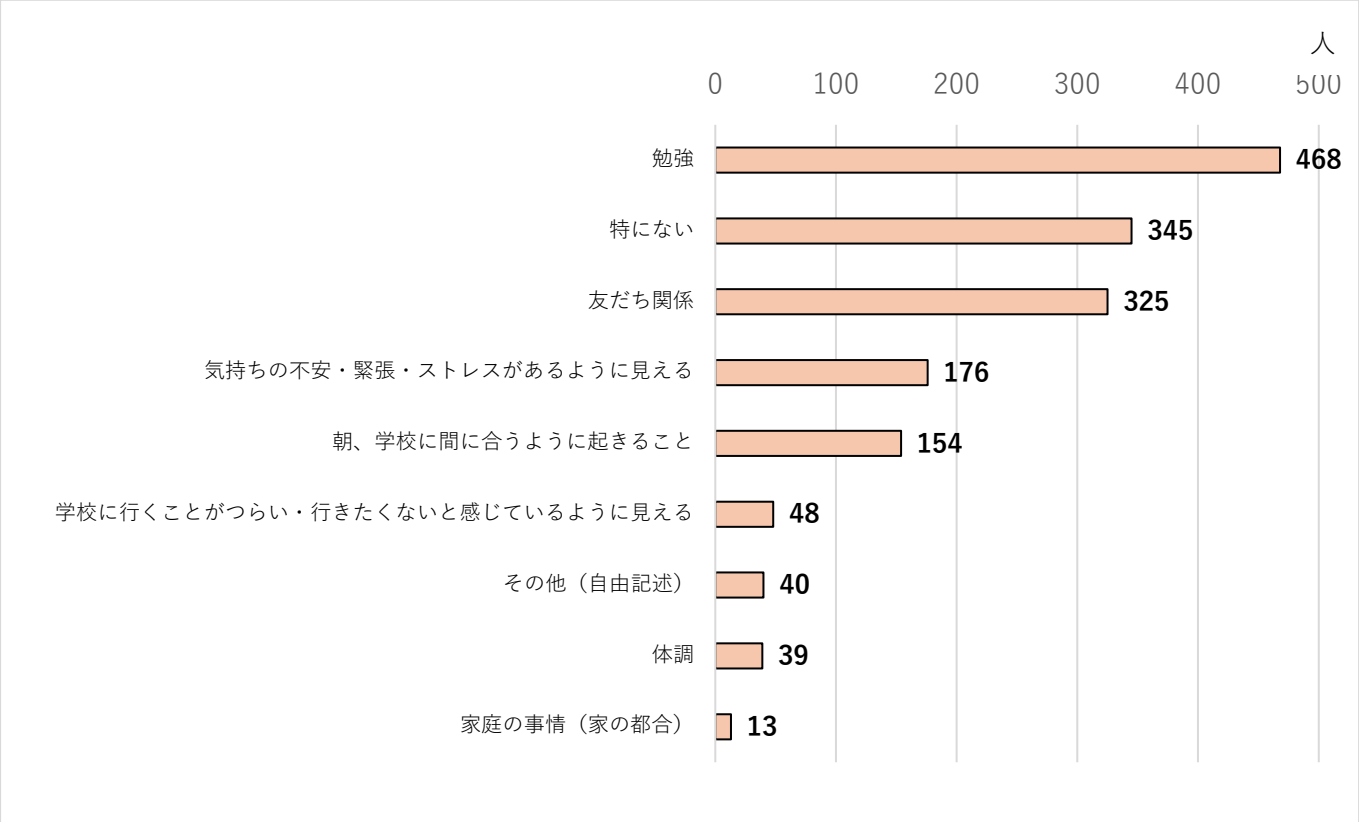
※項目は回答割合の高い順に掲載

項　目（２つまで）	こども	
勉強	127人	42.5%
朝、学校に間に合うように起きること	79人	26.4%
友だち関係	78人	26.1%
学校に行くことがつらい・行きたくないと感じることがある	60人	20.1%
気持ちの不安・緊張・ストレス	59人	19.7%
その他（自由記述）	44人	14.7%
体調	14人	4.7%
家庭の事情（家の都合）	1人	0.3%

「その他」に記載された意見の整理【こども】

友達関係や人間関係に関する悩み、授業や学習に関する困りごとのほか、教室環境や学校生活、心身の不調、登下校、部活動など、学校生活全般に関する意見があった。

- こどもの学校生活や学びにおける困りごと（複数回答）【保護者（小５～中３）】



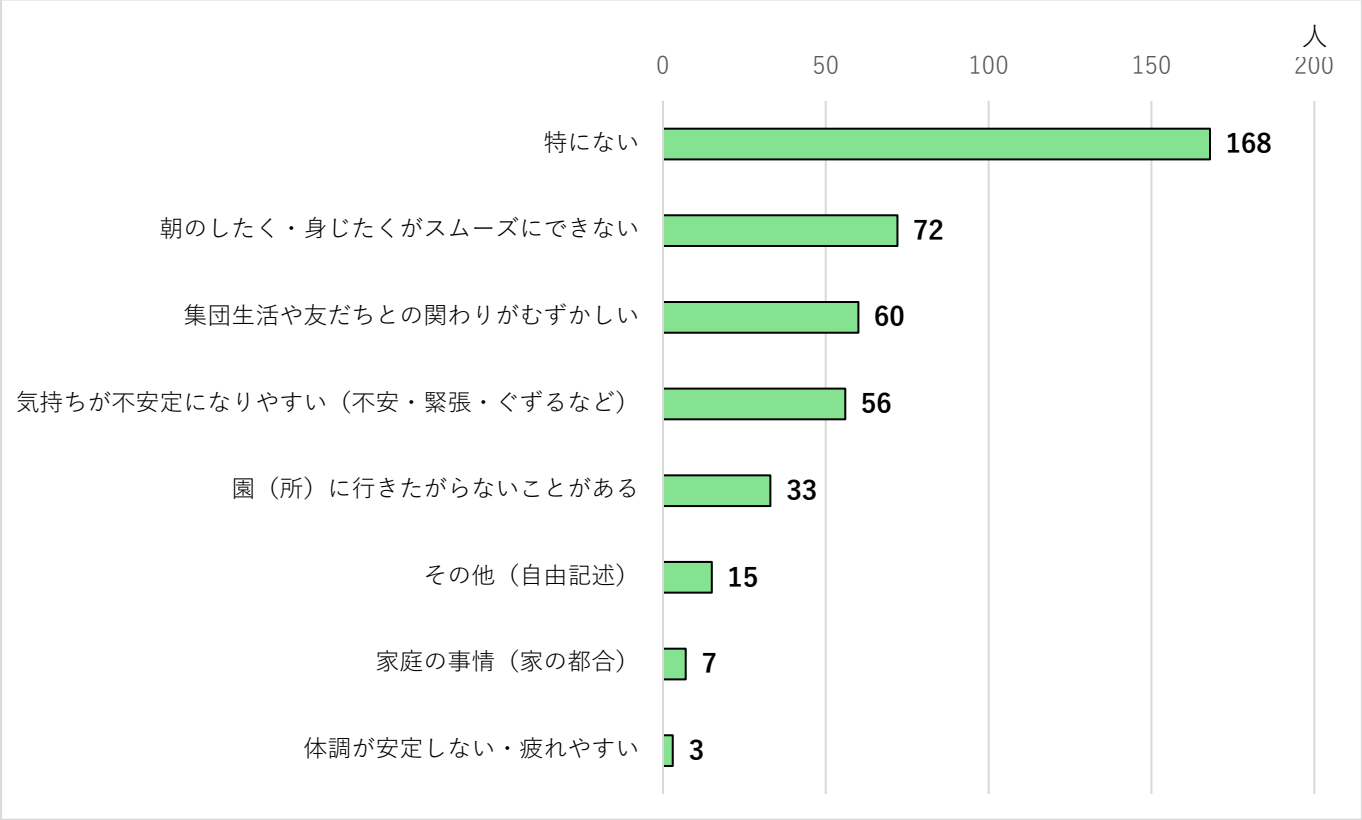
回答数・回答割合（複数回答）【保護者（小５～中３）】　　※項目は回答割合の高い順に掲載

項　目（２つまで）	保護者（小５～中３）	
勉強	468人	40.4%
特にない	345人	29.8%
友だち関係	325人	28.1%
気持ちの不安・緊張・ストレスがあるように見える	176人	15.2%
朝、学校に間に合うように起きること	154人	13.3%
学校に行くことがつらい・行きたくないと感じているように見える	48人	4.1%
その他（自由記述）	40人	3.5%
体調	39人	3.4%
家庭の事情（家の都合）	13人	1.1%

「その他」に記載された意見の整理【保護者（小５～中３）】

授業中の私語や立ち歩きなどによる学習環境の悪さ、教師との関係や友だち・部活動など学校生活における人間関係に関する意見があった。また、発達特性への配慮や集団生活への適応、学校に行くことへの不安や安心できる居場所、家庭や体調に関する意見も見られた。

- **こどもの生活や園所での困りごと（複数回答）【保護者（５歳児）】**



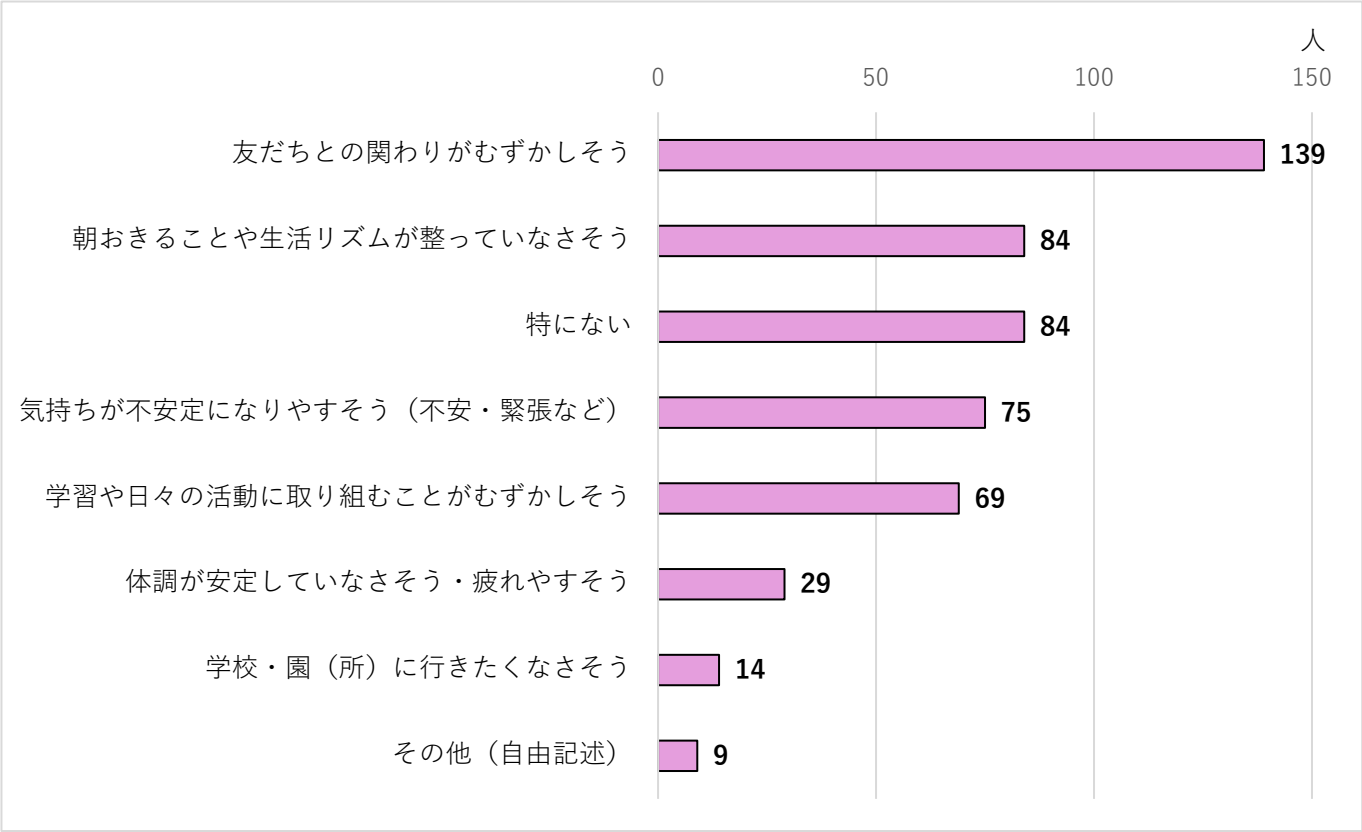
回答数・回答割合（複数回答）【保護者（小５～中３）】　　※項目は回答割合の高い順に掲載

項　目（２つまで）	保護者（５歳児）	
特にない	168人	47.5%
朝のしたく・身じたくがスムーズにできない	72人	20.3%
集団生活や友だちとの関わりがむずかしい	60人	16.9%
気持ちが不安定になりやすい（不安・緊張・ぐずるなど）	56人	15.8%
園（所）に行きたがらないことがある	33人	9.3%
その他（自由記述）	15人	4.2%
家庭の事情（家の都合）	7人	2.0%
体調が安定しない・疲れやすい	3人	0.8%

「その他」に記載された意見の整理【保護者（５歳児）】

自分の思いや気持ちを伝えることや集団生活への適応に関する意見があった。また、登園時に保護者と離れにくいこと、癇癪、集中力、自立心、生活習慣など、こどもの成長や発達に関する意見も見られた。

- **こどもの生活や学校・園所での困りごと（複数回答）【市民】**



回答数・回答割合（複数回答）【市民】　　※項目は回答割合の高い順に掲載

項　目（２つまで）	市民	
友だちとの関わりがむずかしそう	139人	40.1%
朝おきることや生活リズムが整っていなさそう	84人	24.2%
特にない	84人	24.2%
気持ちが不安定になりやすそう（不安・緊張など）	75人	21.6%
学習や日々の活動に取り組むことがむずかしそう	69人	19.9%
体調が安定していなさそう・疲れやすそう	29人	8.4%
学校・園（所）に行きたくなさそう	14人	4.0%
その他（自由記述）	9人	2.6%

「その他」に記載された意見の整理【市民】

学校や教職員の対応、安心して過ごせる学校環境、学校に行きづらいこどもの居場所や支援などに関する意見が見られた。また、家庭によって困りごとは異なるとの意見や、暑さ対策など、学習・運動環境の整備を求める意見もあった。

分析

こどもが感じている困りごとは、学習面や友だち関係、生活リズムなど、学校生活に関わる身近な内容が中心となっている。

保護者（小 5～中 3）では「勉強」が最も多く、学習面への心配が特に高いことが分かる。

保護者（5 歳児）では「特にない」が最も多い一方、生活習慣や集団生活、友だちとの関わりに関する困りごとが上位となっている。市民では「友だちとの関わりがむずかしそう」が最も多く、生活リズムや気持ちの不安定さについても一定の割合を占めている。

困りごとは一人ひとり異なるため、学習面への支援だけでなく、人間関係や心理面、生活面を含めて、こどもが安心して学び続けられる環境づくりが求められる。

トイレや空調など、快適な環境整備を求める声が多い

設問

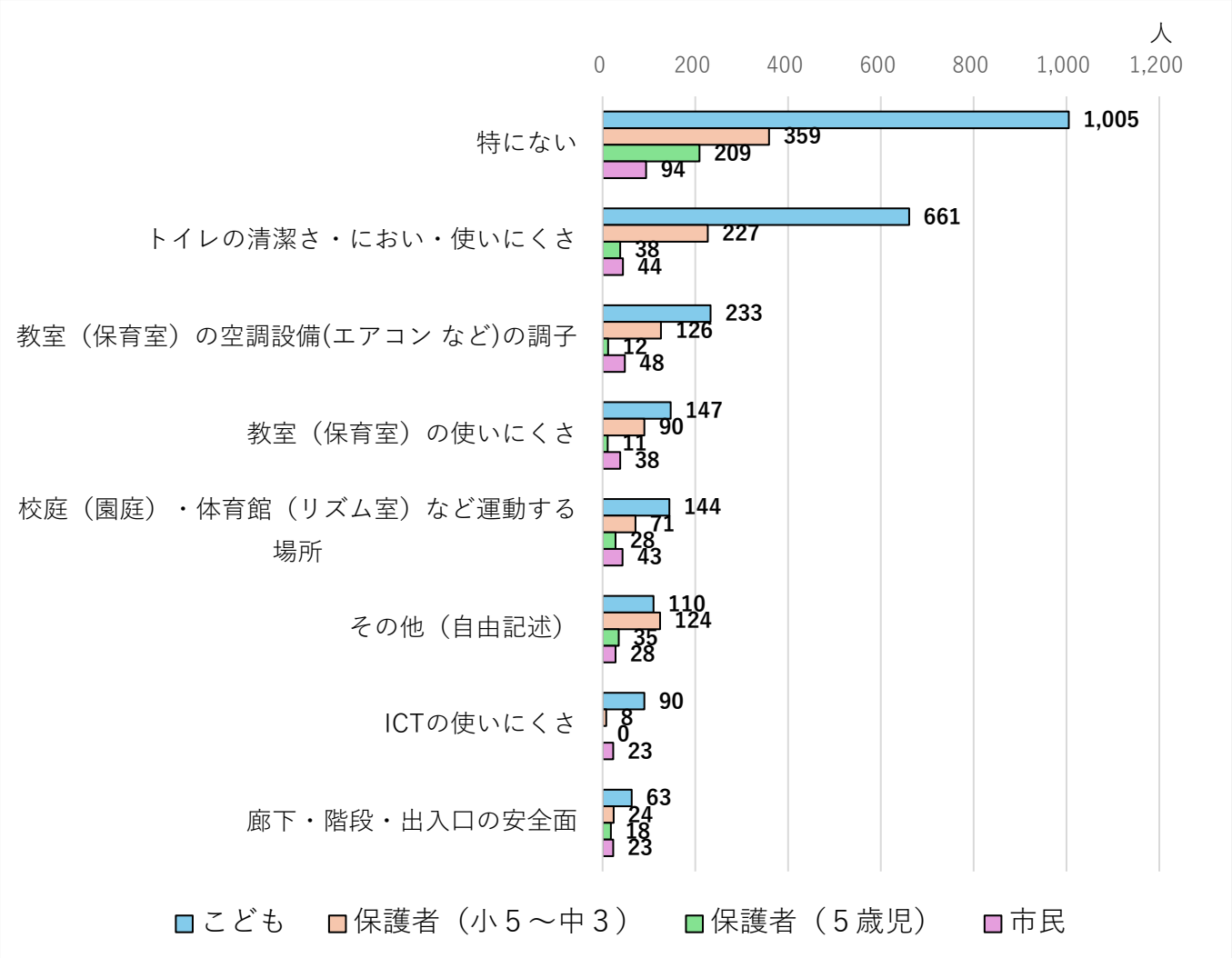
こども　あなたは、学校で、「ここが気になる」「もう少しよくなるといい」と思うことはどれですか。

保護者　学校（園所）で「ここが気になる」「もう少しよくなるといい」と感じる点があれば教えてください。※小中学校は公立のみ

市　民　学校や園（所）で「ここが気になる」「もう少しよくなるといい」と感じる点があれば教えてください。

グラフ

● **学校・園所で改善してほしいこと【こども・保護者・市民】**



回答数・回答割合【こども・保護者・市民】　　※項目はこどもの回答割合の高い順に掲載

項　目（１つ選択）	こども		保護者（小５～中３）		保護者（５歳児）		市民	
特にない	1,005人	37.7%	359人	31.0%	209人	59.0%	94人	27.1%
トイレの清潔さ・におい・使いにくさ	661人	24.8%	227人	19.6%	38人	10.7%	44人	12.7%
教室（保育室）の空調設備(エアコン など)の調子	233人	8.7%	126人	10.9%	12人	3.4%	48人	13.8%
教室（保育室）の使いにくさ	147人	5.5%	90人	7.8%	11人	3.1%	38人	11.0%
校庭（園庭）・体育館（リズム室）など運動する場所	144人	5.4%	71人	6.1%	28人	7.9%	43人	12.4%
その他（自由記述）	110人	4.1%	124人	10.7%	35人	9.9%	28人	8.1%
ICTの使いにくさ	90人	3.4%	8人	0.7%	—	—	23人	6.6%
廊下・階段・出入口の安全面	63人	2.4%	24人	2.1%	18人	5.1%	23人	6.6%

「その他」に記載された意見の整理【こども】

教室や体育館などの学習環境・施設・設備の改善を求める意見が多く、特に、体育館への空調設備の設置や、トイレ・更衣室などの衛生環境の改善を求める意見が多く見られた。このほか、ICT 環境、授業や学校生活、人間関係や教職員への要望など、学校生活全般に関する意見もあった。

「その他」に記載された意見の整理【保護者（小５～中３）】

体育館の空調設備や校舎の老朽化、トイレ・更衣室など施設・設備の改善を求める意見が多く見られた。また、授業妨害への対応や校則・生徒指導の徹底、教師の対応、防犯対策、学校運営の改善に関する意見もあった。

「その他」に記載された意見の整理【保護者（５歳児）】

安全対策や施設・設備の改善を求める意見が多く見られた。また、送迎時の環境や保育内容、職員対応、保護者負担の軽減などに関する意見もあった。

「その他」に記載された意見の整理【市民】

体育館等の空調整備や暑さ対策、教職員の配置や対応、こどもと向き合う時間の確保に関する意見が多く見られた。また、施設・設備の老朽化や環境整備、通学路の安全・防犯対策、心理的に安心できる環境づくり、学校施設の活用や ICT 活用に関する意見もあった。

分析

こども・保護者・市民の回答から、よりよい学校・園所づくりに向けて、日常的に利用する施設環境の充実が求められていることが分かる。

特に、トイレの環境や暑さ対策など、こどもが毎日安心して過ごすための基本的な環境整備への関心が高くなっている。

また、施設・設備だけでなく、防犯対策、人間関係、教職員の関わり、ICT 環境など、こどもが安心して学び生活するための幅広い環境づくりへの期待も見られる。

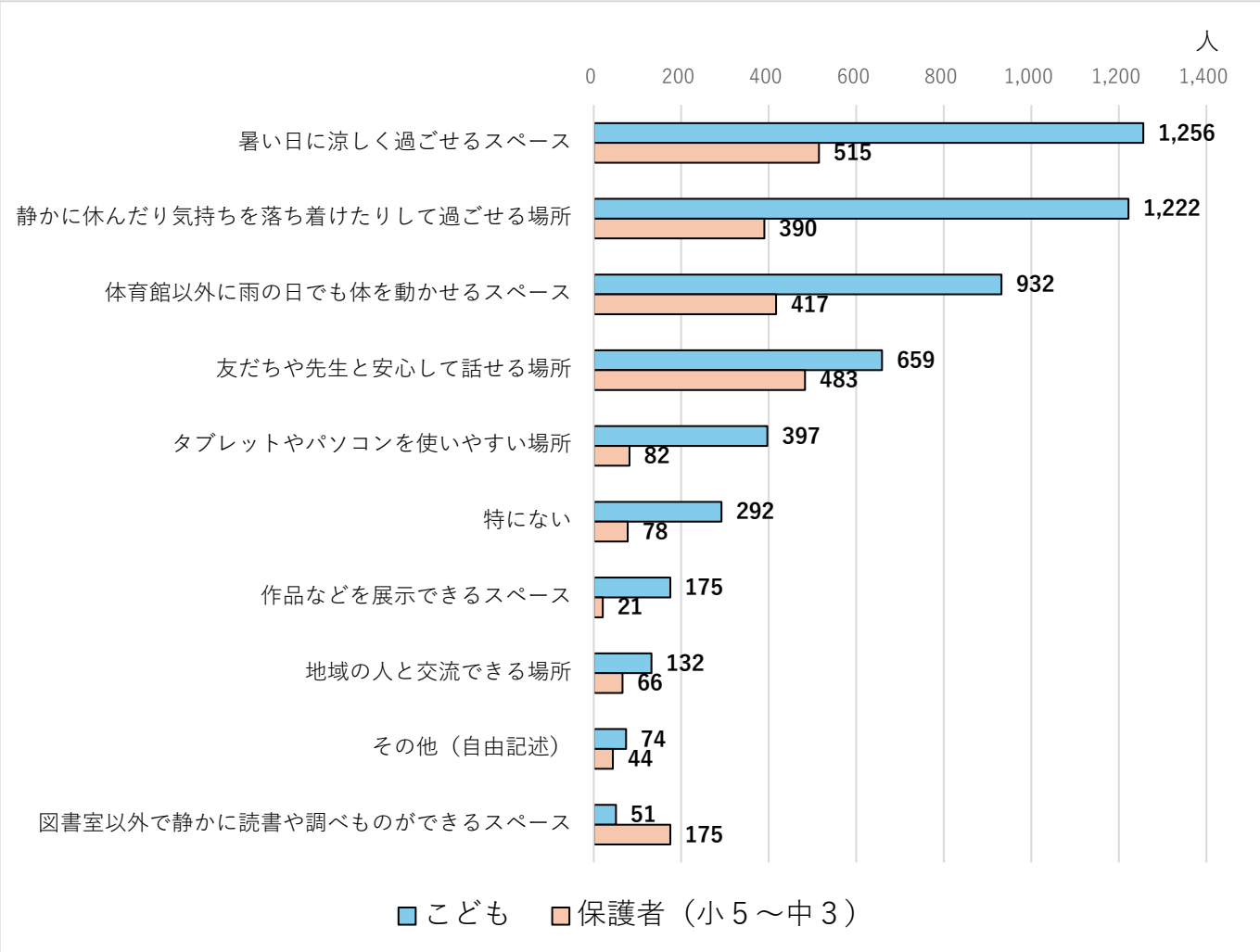
快適に過ごせる環境や安心できる居場所を求める声が多い

設問

こども　これからの学校がもっとよくなるために、どんな場所や設備があったらいいと思いますか。
保護者　学校（園所）がよりよくなるために、必要だと思う場所や設備があれば教えてください。
※公立のみ
市　民　学校や園（所）がよりよくなるために、必要だと思う場所や設備があれば教えてください。

グラフ

- **これからの学校に必要な場所や設備（複数回答）【こども・保護者（小５～中３）】**



回答数・回答割合（複数回答）【こども・保護者（小５～中３）】

※項目はこどもの回答割合の高い順に掲載

項　目（３つまで）	こども		保護者（小５～中３）	
暑い日に涼しく過ごせるスペース	1,256人	47.1%	515人	44.5%
静かに休んだり気持ちを落ち着けたりして過ごせる場所	1,222人	45.9%	390人	33.7%
体育館以外に雨の日でも体を動かせるスペース	932人	35.0%	417人	36.0%
友だちや先生と安心して話せる場所	659人	24.7%	483人	41.7%
タブレットやパソコンを使いやすい場所	397人	14.9%	82人	7.1%
特にない	292人	11.0%	78人	6.7%
作品などを展示できるスペース	175人	6.6%	21人	1.8%
地域の人と交流できる場所	132人	5.0%	66人	5.7%
その他（自由記述）	74人	2.8%	44人	3.8%
図書室以外で静かに読書や調べものができるスペース	51人	1.9%	175人	15.1%

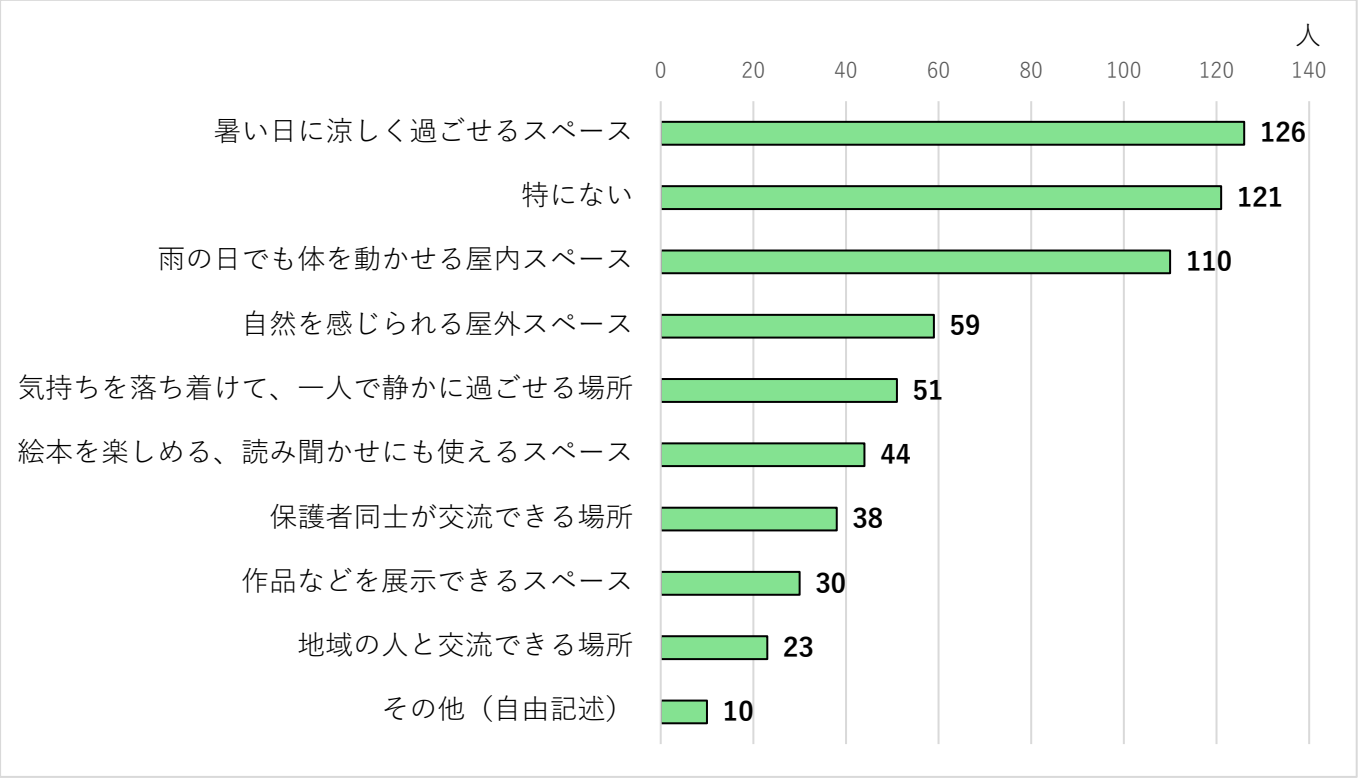
「その他」に記載された意見の整理【こども】

運動・スポーツ施設の充実を求める意見が最も多く、体育館への空調設備の設置や涼しく過ごせる場所など、快適に学校生活を送るための環境整備を求める意見も見られた。また、友だちや他学年と交流できる場所や、一人で落ち着いて過ごせる場所、自習・読書ができる学習スペースなど、目的に応じて過ごせる多様な空間を求める意見もあった。

「その他」に記載された意見の整理【保護者（小５～中３）】

体育館への空調設備の設置を求める意見が最も多く、放課後や長期休暇にも利用できる自習スペース・学習支援の場を求める意見もあった。また、トイレ・更衣室などの設備改善や、安心して過ごせる居場所、きめ細かな教育支援に関する意見も見られた。

- **これからの園所に必要な場所や設備（複数回答）【保護者（５歳児）】**



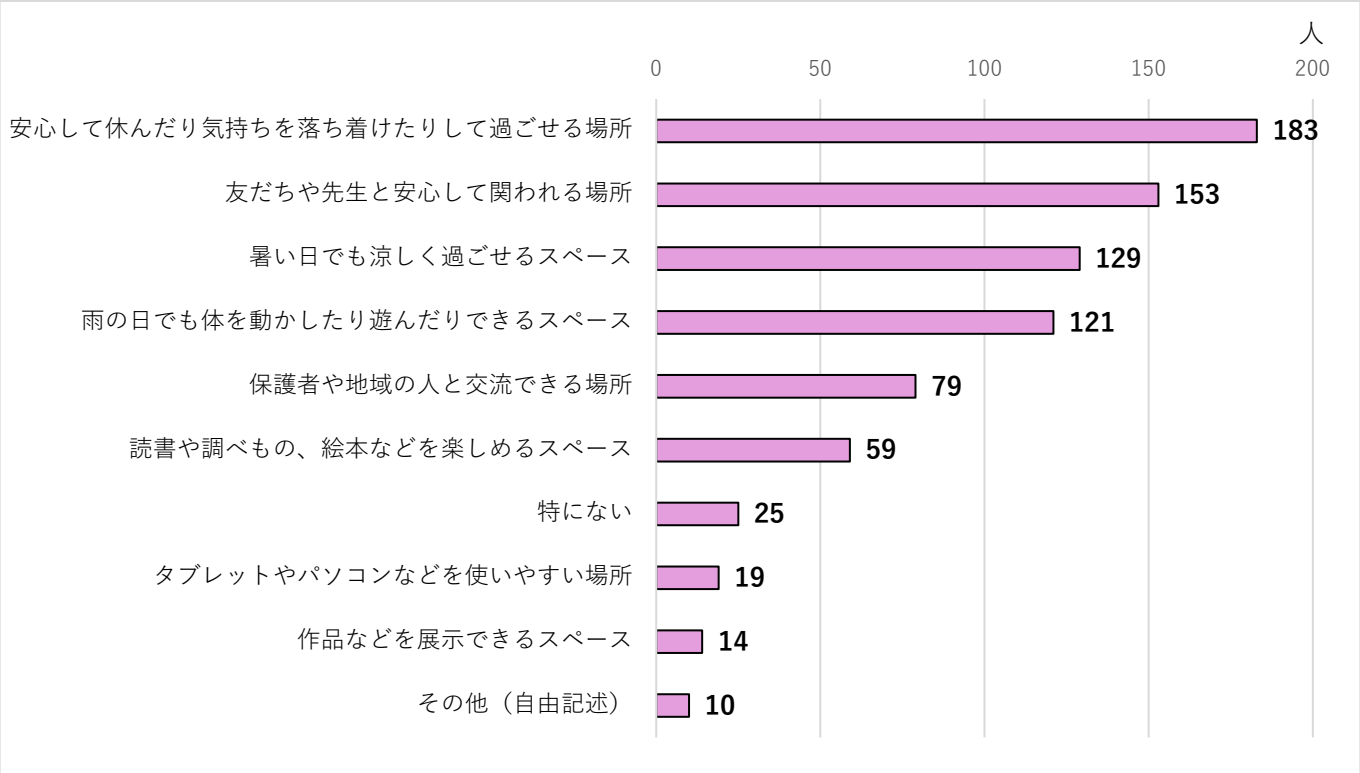
回答数・回答割合（複数回答）【保護者（５歳児）】　　※項目は回答割合の高い順に掲載

項　目（３つまで）	保護者（５歳児）	
暑い日に涼しく過ごせるスペース	126人	35.6%
特にない	121人	34.2%
雨の日でも体を動かせる屋内スペース	110人	31.1%
自然を感じられる屋外スペース	59人	16.7%
気持ちを落ち着けて、一人で静かに過ごせる場所	51人	14.4%
絵本を楽しめる、読み聞かせにも使えるスペース	44人	12.4%
保護者同士が交流できる場所	38人	10.7%
作品などを展示できるスペース	30人	8.5%
地域の人と交流できる場所	23人	6.5%
その他（自由記述）	10人	2.8%

「その他」に記載された意見の整理【保護者（５歳児）】

安全・防犯対策や園内外の安全確保、プライバシーへの配慮、保育環境の充実などに関する意見があった。また、ICT を活用した利便性向上や施設・設備、職員対応などに関する意見もあった。

- **これからの学校・園所に必要と思う場所や設備（複数回答）【市民】**



回答数・回答割合（複数回答）【市民】　　※項目は回答割合の高い順に掲載

項　目（３つまで）	市民	
安心して休んだり気持ちを落ち着けたりして過ごせる場所	183人	52.7%
友だちや先生と安心して関われる場所	153人	44.1%
暑い日でも涼しく過ごせるスペース	129人	37.2%
雨の日でも体を動かしたり遊んだりできるスペース	121人	34.9%
保護者や地域の人と交流できる場所	79人	22.8%
読書や調べもの、絵本などを楽しめるスペース	59人	17.0%
特にない	25人	7.2%
タブレットやパソコンなどを使いやすい場所	19人	5.5%
作品などを展示できるスペース	14人	4.0%
その他（自由記述）	10人	2.9%

「その他」に記載された意見の整理【市民】

体育館への空調設備の整備や通学路や送迎時の安全確保、見守り体制に関する意見が多く見られた。また、トイレなど施設・設備の改善に関する意見もあった。

分析

こども、保護者、市民では、「暑い日に涼しく過ごせるスペース」や「安心して休んだり気持ちを落ち着けたりして過ごせる場所」など、快適かつ安心して過ごせる環境へのニーズが高くなっている。

また、雨の日でも体を動かせるスペースや、友だちや先生と安心して関われる場所など、運動や人との関わりを支える環境も求められている。

学校・園所では、学習だけでなく、休息や気持ちの安定、運動、交流など、こどもの多様な過ごし方に応じた場所や環境を整えていくことが重要である。

●　アンケート結果から見えてきたこと

Ⅰ　毎日の生活

家庭での関わりや生活習慣は概ね良好である一方、継続した支援が重要

・家庭での会話や見守りについては、こども・保護者ともに肯定的な回答が多く、家庭での関わりが概ね良好であることが分かる。

・食事、睡眠、運動などの生活習慣は概ね良好と捉えられている一方、課題を感じているこどもや保護者も一定数いる。

・運動習慣については、運動時間が短いこどもも一定数いることから、こどもが継続して体を動かす機会を充実させていくことが重要である。

Ⅱ　デジタルとの付き合い方

情報端末の適切な利用に向けた家庭でのルールづくりや支援が重要

・情報端末はこどもの生活に広く浸透しており、利用時間や使い方について、こども・保護者ともに課題を感じている。

・使いすぎや生活リズムへの影響、学習への集中など、情報端末の利用と日常生活とのバランスに関する心配が見られる。

・一方で、情報端末は学習や情報収集などにも活用できるものであり、こども自身が適切に判断し活用する力を育むことが重要である。

Ⅲ　学びと学校・園所

楽しく学び、安心して過ごせる学びの環境づくりが求められている

・こども・保護者・市民のいずれも、学校・園所において「楽しく学べること」「安心して過ごせること」などを重視している。

・「友だちや仲間と協力する活動」が各対象で上位に挙げられており、人との関わりを通して学ぶ機会や、体験・実験・ものづくり、興味や関心に応じた学びなど、多様な学びの機会が求められている。

・基礎的な学力や将来につながる学びに加え、実生活に役立つ学びや地域など社会との関わりを意識した学びへの期待も見られ、こどもの発達や興味・関心に応じた学びの充実が重要である。

Ⅳ　安心して過ごすために

こどもが安心して過ごし、相談できる環境づくりが重要

・困ったときの相談先として、家族や友だち、学校の先生など、身近な人とのつながりが大きな役割を果たしている。

・自分の考えや気持ちを安心して伝えられる環境については、こどもと保護者・市民の認識に差が見られ、こどもの声を受け止める環境づくりが求められる。

・学校に行くことや学ぶことに困りごとを抱えるこどももいることから、一人ひとりの状況に応じた支援や居場所づくりが重要である。

Ⅴ　よりよい学校・園所づくりに向けて

安心・快適に過ごせる教育環境の整備と多様な居場所づくりが求められている

・学校・園所の環境については、トイレや空調などの施設・設備の改善を求める意見が見られ、快適で安全な環境整備への期待が高い。

・暑さ対策や静かに休める場所、安心して相談できる場所など、こどもが自分の状態に応じて過ごせる多様な場へのニーズが見られる。

・学習、交流、運動、地域との関わりなど、学校・園所をより豊かな学びの場とするための環境づくりが求められている。

これらの結果から、こどもが安心して過ごせることを土台に、一人ひとりの興味・関心や状況に応じて学び、周囲と関わりながら成長できる環境を整えていくことが重要である。

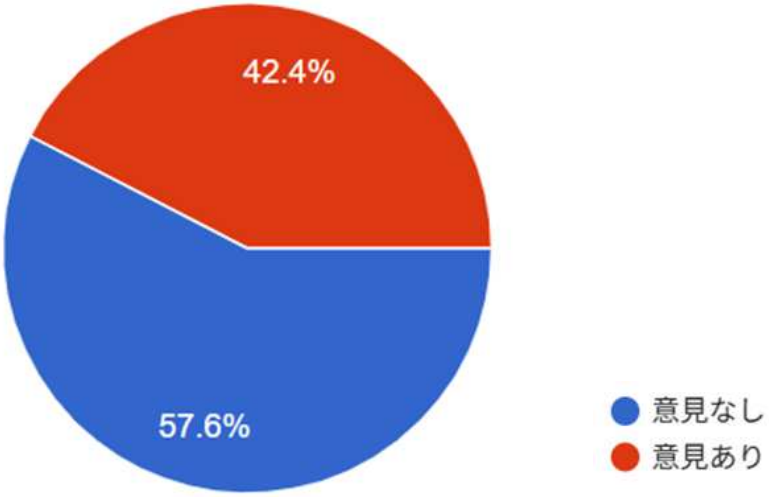
※　アンケートで示されたこども・保護者・市民の意見を踏まえ、本計画の取組等に反映していく。

３　アンケート結果（教職員）

Ⅰ　生き抜く力の育成と戦略的協働基盤（プラットフォーム）

設問

Q1.「～生き抜く力の育成～ 戦略的協働基盤（プラットフォーム）たたき台」について意見はありますか。



＜主な意見や要望＞

・生み出した余白を、教員個人のプライベートの充実や健康保持に還元することも大事にすべきですが、**このプランをオール八幡で進め、保護者、地域にも理解を得て参画いただくには、本市の特色ある教育、生き抜く力の育成に現場が本気で取り組み**、子どもの姿から成果を感じていただかなければと思います。

・40 分授業になるが、今まで慣れていた授業の時間配分などの感覚もかわるため、果たして**４０分という今までの時間で教えきれるのかが不安**である。

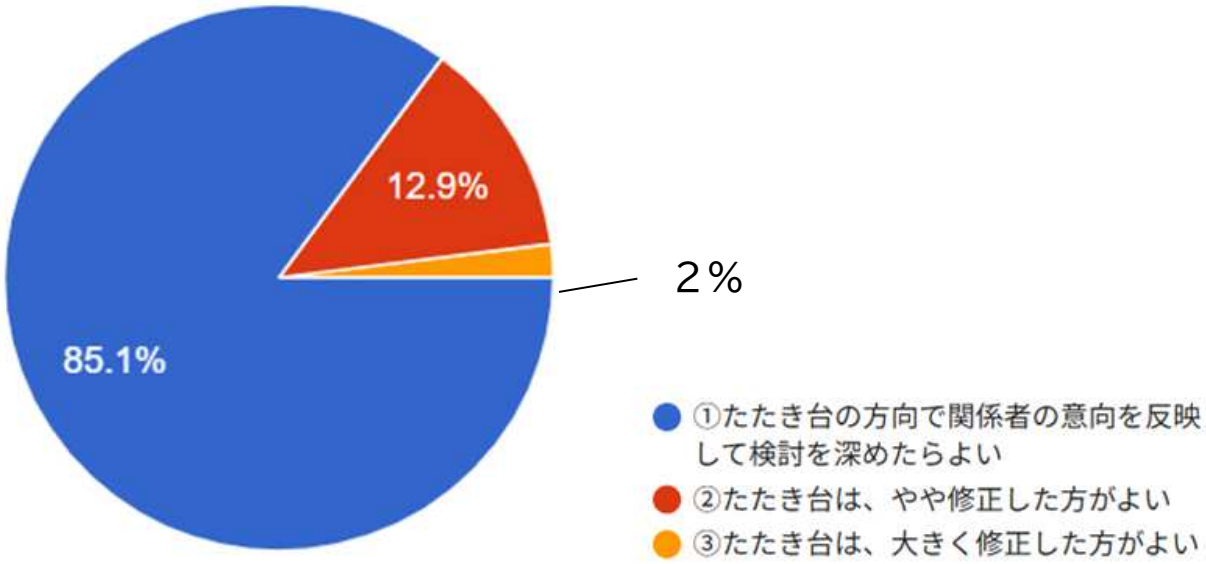
・余白を創出して、探究的な学びや学力補充をするのは大変意義があると考えます。教員の働きがい改革としての**余白の使い方は、学校裁量で研修や授業研究に使えるのはとても有難いです。しかし、マネジメントにかかっているとも言えるので、研修内容の例示や先進地の取組紹介等もしていただけると有難い**です。

・**放課後の子どもの居場所は大切ですが、学校で何とかするのは限界があります。**おっしゃっていたように、福祉や地域のお力を借りて、子ども たちが有意義な時間を過ごせると良いです。

Ⅱ　余白の創出による授業力・働き方改革

設問

Q2.　『余白の創出による授業力・学力・課題発見能力の向上と働き方（働きがい）改革　（戦略的協働基盤）たたき台』ついて、どのように感じ考えましたか。



＜主な意見や要望＞

・本校では、ふるさと学習、探究学習、体験学習に力を入れられること、個別最適な学習で個々の学習補充ができることなど、**特色のある取り組みが幅広く展開できることが期待**されます。

　学校として、年間のカリキュラムマネジメントを組むことで、若手が余白に心配なく取り組める環境を作っていけると考えます。その準備期間が、必要になってくると思います。余白のない現状から、いつまでに、どのように生み出していくのか、**多岐にわたる選択肢から、どのように組み立てるのか、大枠のモデルを示していただける**と、**ありがたいです。**

・授業時間数を５分減らすことで、**１日の日課がどのように変わるのかを示していただくと**、イメージが湧きやすくなると思います。

・**40 分の中で、どのように授業を組み立てていくのか**のお手本があると嬉しいです。

・各学校の実態がちがうので、**各学校裁量の部分も残してほしい。**

●　教職員の意見を踏まえた今後の方向性

・「生き抜く力育み委員会」を設置し、「近江八幡市グランドデザイン」として、こどもの「生き抜く力」の育成に向けた週時程モデルや余白の活用事例等を示す。あわせて、授業時間を短縮した場合の授業モデルを作成する。

・「学校運営検討委員会」において、特に小学校で課題となる放課後の居場所の確保について、関係各課と連携を図りながら協議を進める。

・柔軟な教育課程の編成については、各校の学校教育目標の実現や課題の解決、めざすこどもの姿の実現に向け、各校が学校の実態に応じた特色ある教育課程を編成できるよう、伴走・支援を行う。